

3759
Ab5

資料室

大正七年一月十日
文部省檢定

訂師範學校教科書 圖畫教科書

河野七郎
荷鏡大郎
著

著



広島大学図書

2000301414



教科書文庫
4
710
51-1918
2000301414

生徒諸子へ 著者より

本書に據つて圖畫を學ぶ生徒諸子は、萬事教師の指導に隨ふべきは勿論であります。尙左の諸點を心得て居てもらひたい。

一、本書は圖畫教科書であつて、臨畫帖即ち畫手本ではありません。無論本書にも生徒諸子が直ちに臨摹すべき手本を挿入して置きましたが、それが本書の總てではない。尙其の他に文部省教授要目の要求する多くの要件を具備させて置きました。それ故に臨摹すべきものと思ふと大なる間違であります。

二、本書挿入の文章は、諸子が教師より理論と方法との講説を聞いたとき、其の要を摘んだ記事がなくては、領會の助を缺き、又備考の資を得難い譯でありますから、教科書として是非なければならぬ筈のものと信じて、之れを挿入したのであります。

文章の終に挿畫の題目を記してあるのは、之と對照して會得せよとの意味であります。
三、寫生畫・考案畫等を自在に且巧みに作らんに、

畫方・作例等の參考材料を豊富に持つて居る事が肝腎であります。されど本書には紙數に限定がありますから、只骨子・標準となるべきものを載せただけに過ぎません。それ故に諸子は日常注意して斯かる參考資料を廣く且多く蒐集する心懸が大切であります。

本書の文章の上欄に挿入した種々なる模様畫、其の他本書の體裁を佳良ならしむる爲めに試みた種々なる意匠等も、よく注意して視て貰ひたい。大に參考の資料とならうと思ひます。

四、本書は圖畫教科書として出來得る限りの注意を製版上に拂ひました。即ち各種製版の長所をそれぞれ適當の方面に發揮せしめた積りであります。諸子はこれに依て本邦製版術の一般と其の一長一短とを知り、併せて版畫の趣味をも味ふことが出來ようと思ひます。

五、技術教育の主要旨は反復練習といふことであります。諸子は獨り教室内の練習のみを以て満足せず、機會にあらば、畫筆を取ることを忘れてはなりません。

第一章 色彩……………一
色の對比(餘色、對比の法則)、色の調和、色の採集

挿畫

色の對比、色の採集と其の應用、織物、表紙
第二章 動物……………一三
獸(獸の畫方、獸の模様化)

挿畫

各方面より見たる獸、獸、馬、獸(日本畫、西洋畫)

第三章 人物……………二二
顔(顔の畫方)

挿畫

男子の顔、女子の顔、廣瀬中佐、税所教子

第四章 景色……………二九
景色(景色の畫方、景色の色彩)

挿畫

雲、烟、水、船、海、瀧、水邊、朝畫、夜、朝の船、畫の山

第五章 建築物……………四一
家屋

挿畫

家の間取、家の正面と平面

第六章 圖案……………四五
平面圖案(文字の應用、繪畫模様、畫の張交、模様の應用)

挿畫

文字と模様、繪畫模様と其の應用、畫の張交、模様の應用(立體)

第七章 幾何圖……………五五
透視圖法

透視圖法

透視圖法、透視圖法上の規約、消點の位置

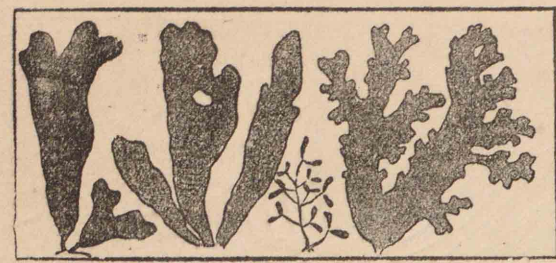
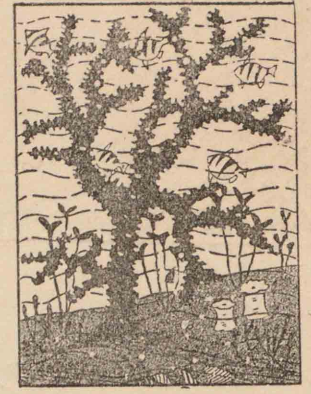
挿畫

平行透視圖法、成角透視圖法

平行透視圖、成角透視圖、座敷(其の一)、座敷(其の二)、陰影及虚像投視圖
(卷の三目次終)



第一章 色彩



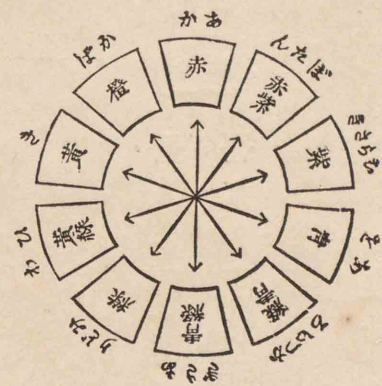
對比の

吾人の眼前には無数の色彩あり、相參差して吾人の眼に映ず。其の隣接する色は互に相犯し、相助くるの作用をなすが故に、吾人の眼には其の固有の色相よりも幾分變化して映ずるを常とす。此の變化の現象を色の對比と稱す。之は色彩の研究上最も重要なる事項なり。

餘色の對比を説かんには、先づ餘色を説かざるべからず。二つの色光を混和する時、其の結果各固有の



色彩を失ひて、無色となる時は、其の二つの色を互に餘色又は補色と稱す。餘色は其の數多しと雖も、吾人が日常慣用する色に就いて其の例を擧ぐれば、左圖に示すが如し、



(解) 直線の兩端に相對せる色は互に餘色なり。

二字の名稱は總べて略稱なり。例へば緑・青と記したるは帶緑・青色を略せるものなり。



對比の法則 對比に(一)色相(異色)の對比と(二)明度(同色)の對比との二種あり。色相の對比に於ては、(甲)餘色の對比と(乙)餘色外の對比とによりて其の結果を異にす。對比に於ける現象の法則を擧ぐれば左の如し。(色の對比)

一、餘色の對比に於ては、互に其の鮮明の度を増す。

(例) 赤と青緑との對比に於ては、二色とも一層鮮かに赤と青緑との色相を發揮す。

二、餘色にあらざる二色の對比に於ては、互に他の色の餘色に傾く。

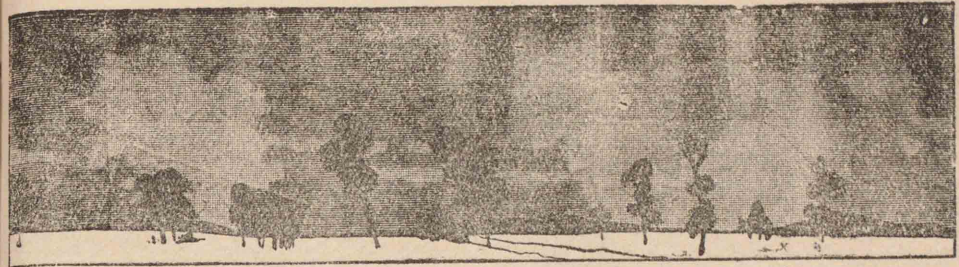
(例) 赤と青との對比に於ては、赤は青の餘色なる黄を帯びて橙に傾き、青は赤の餘色たる青緑を帯びて帶緑青色に傾く。

三、同色の對比に於ては、明色は益、明に、暗色は益、暗に現はる。

以上の現象は双方相接近する部分に於て殊に著し。

調色の和

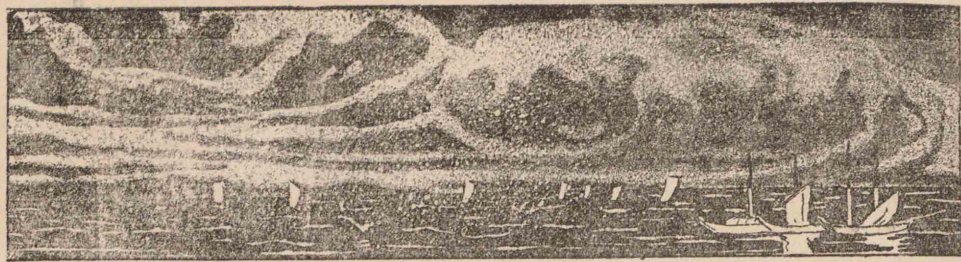
色彩の配合は之を大別して、(一)類似したる色の配合と、(二)類似せざる色の配合とす。類似したる色の配合は互に共通の色を認むる配合にして、類似せざる色の配合は互に共通の色を認めざる配合な



り。前者は著しく統一に傾き、後者は著しく變化に傾くものなり。

色彩の配合に調和を得んには、前卷に説きたる變化と統一との理法により、(一)其の配合したる各色彩に共通の色を有せしむるか、或は(二)配合色の中にて或色に特に勢力を得しむるかにあり。一圖の中にて以上の條件に適合したる色あるは、恰も人に個性あるが如きものにして、其の圖の特色を發揮すると共に、又之によりて各色の統一を得ること易し。

模様配合に於て調和其の宜しきを得ざる時は、色と色との中間に白若しくは黒を配合して良果を得ることあり。黒を用ふる場合は多くは明色の配合に於てし、白を用ふる場合は多くは暗色の配合に於てす。



色の採集

色彩配合の美は其の種類無限なれども、吾人の工夫によりて作り出す配合は、其の範圍甚だ狭く、屢、同型に陥り易し。此の弊を避けんには、常に色彩配合の美を極めたる天然物或は人工物より其の色の配合を採集すること、恰も博物學者が動植礦物を採集するが如くなるべし。而して之を他日圖案の彩色に應用せば、色彩の配合は極めて自在なるを得ん。

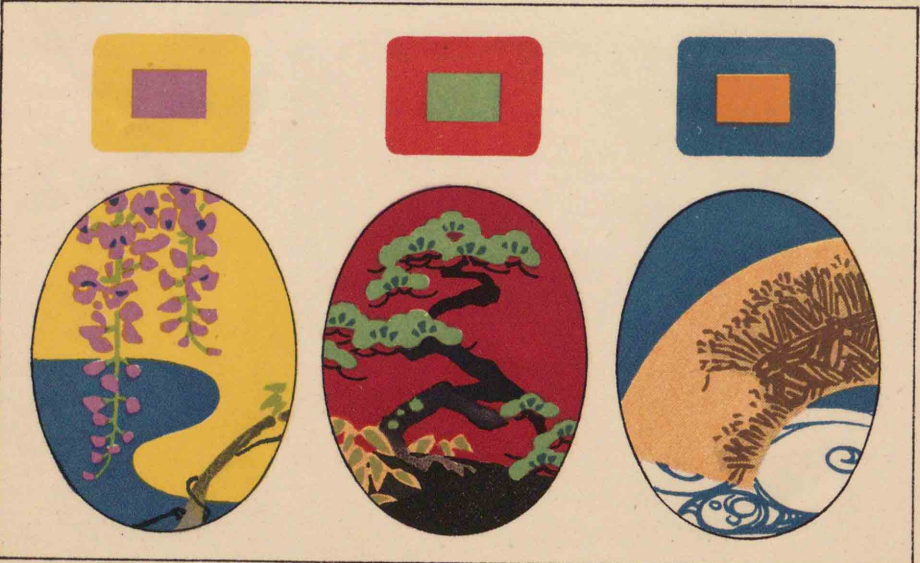
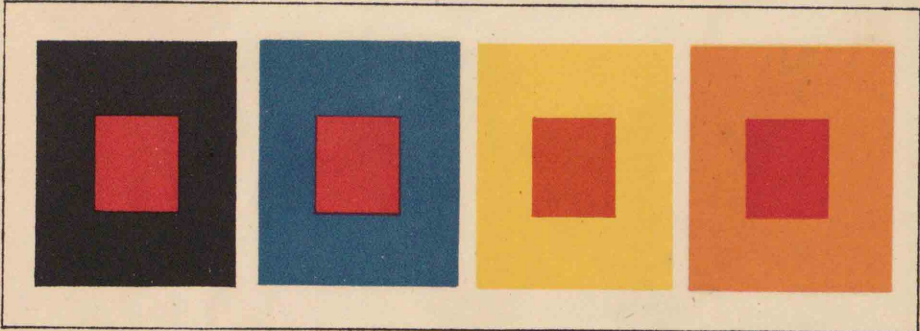
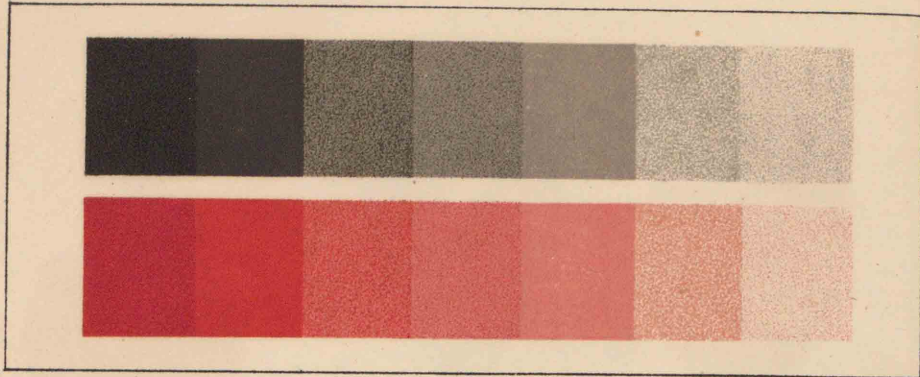
(色の採集と其の應用(織物表紙))

夕榮や

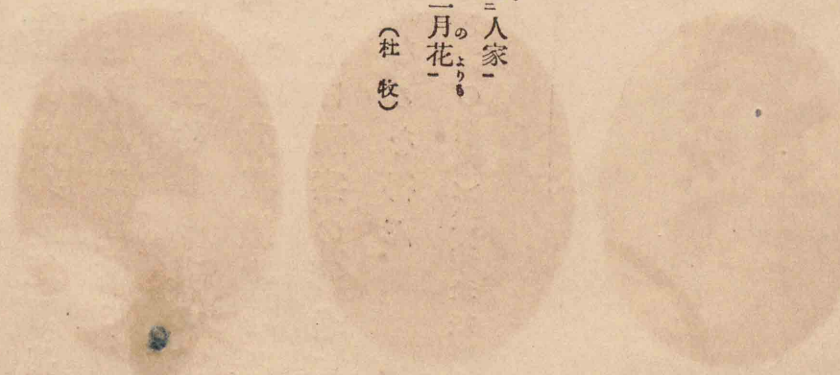
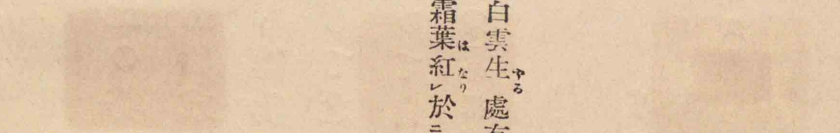
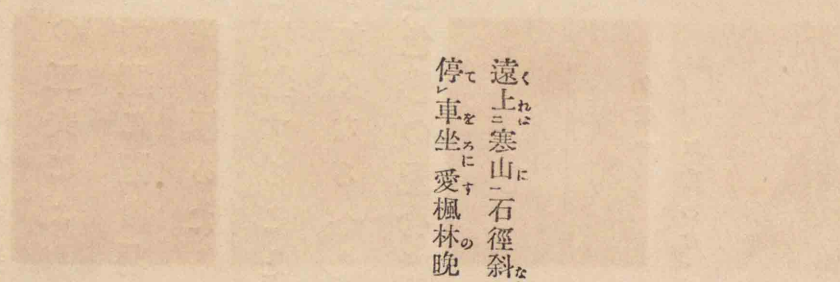
紅葉わけくる

(良水)

人の顔

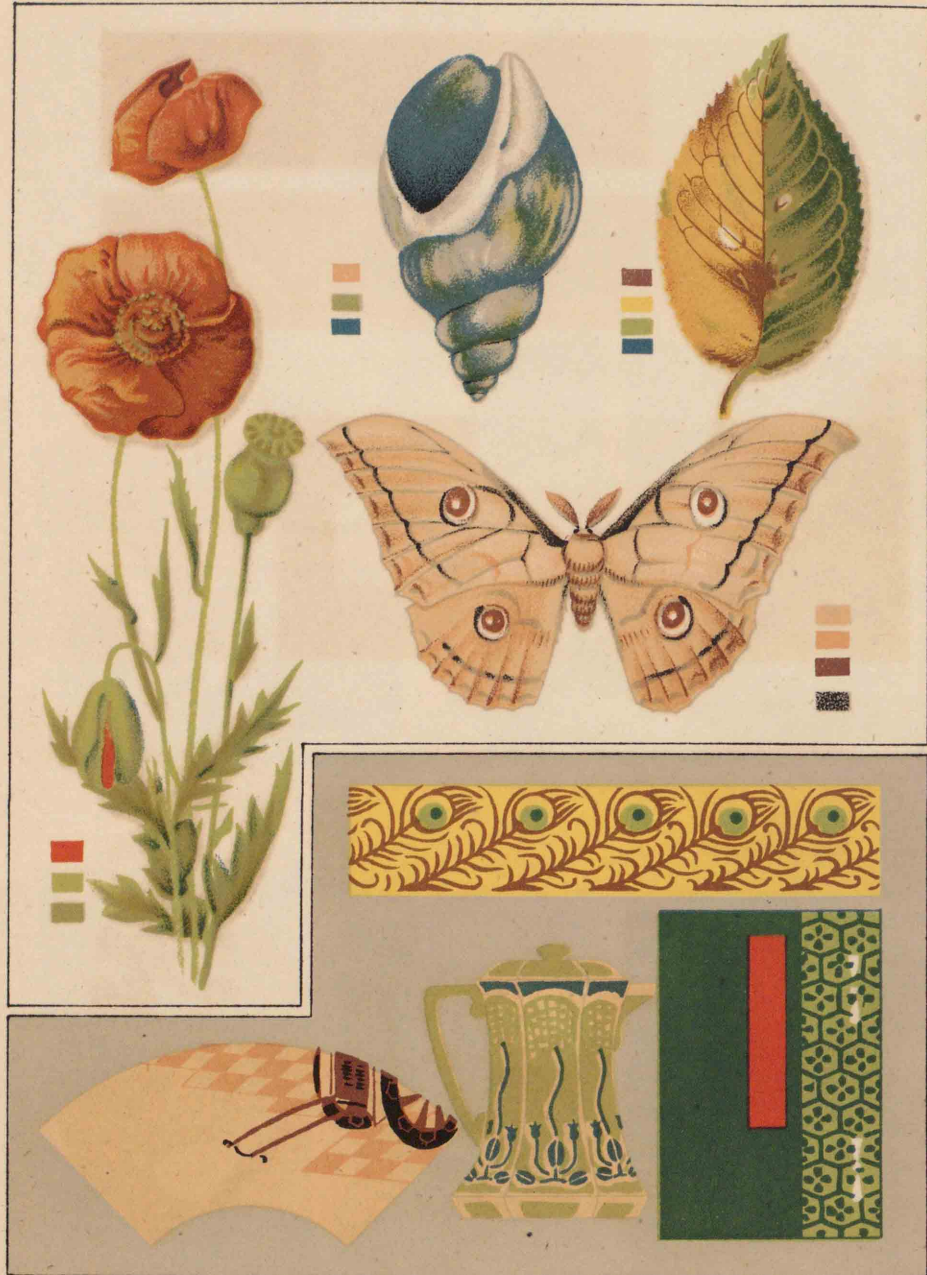


比對の色

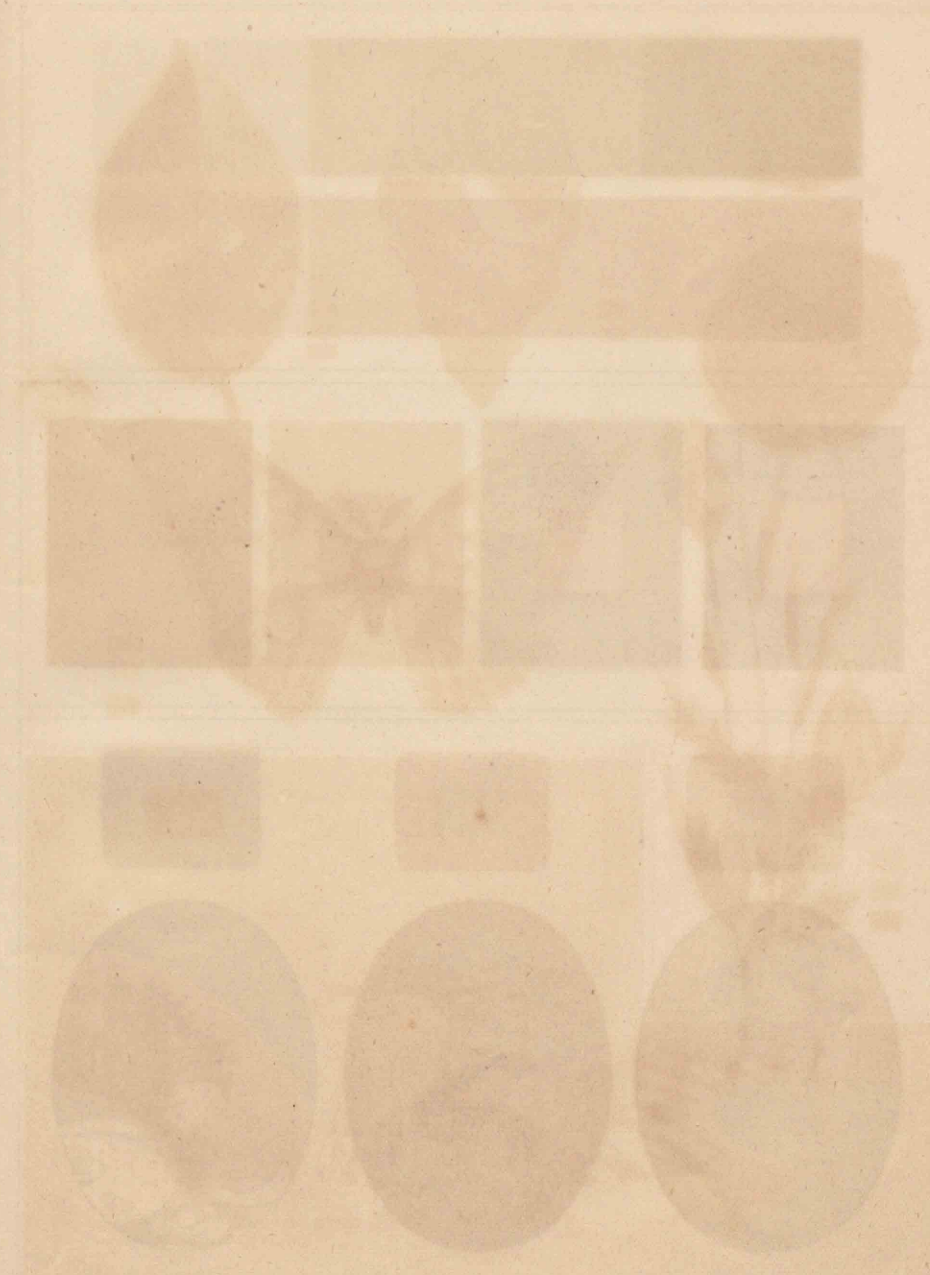


遠上^{くれば}三寒山^に石徑斜^{なり}
 停^て車坐^{をみに}愛楓林^の晚

白雲生^{ゆる}處有^り人家^一
 霜葉紅^{なり}於^に二月花^{のよしも}
 (社牧)

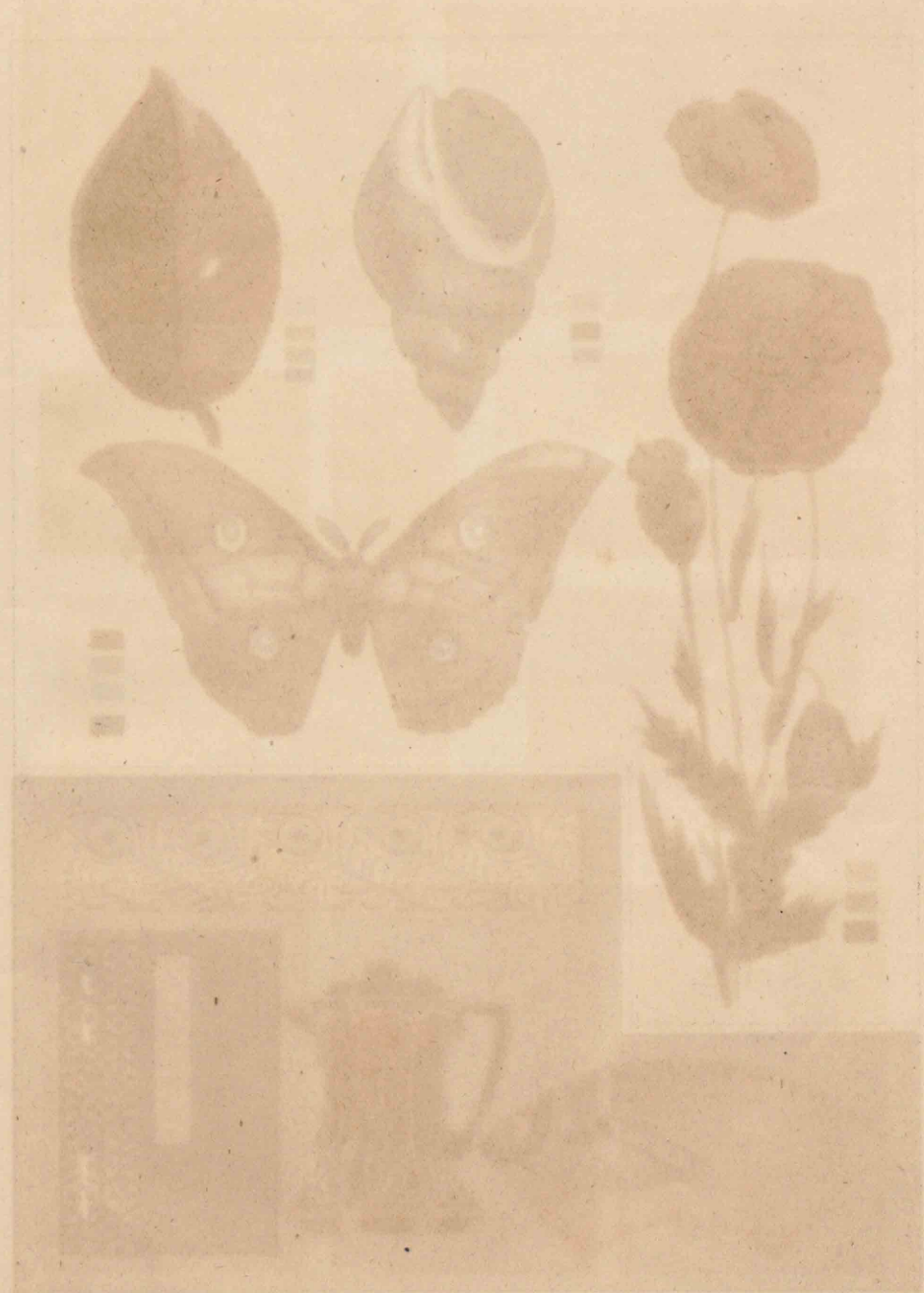


用應の其と集採の色





紙表・物織



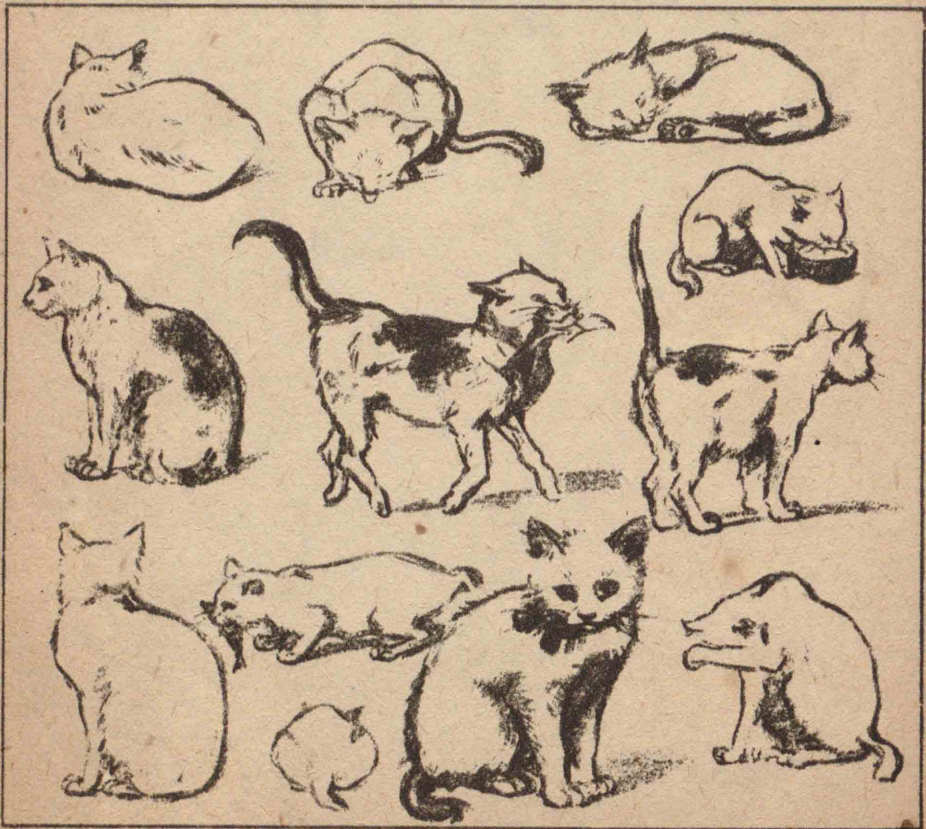


第二章 動物

獸

獸は概して其の素朴なる姿態に特殊の趣あり。鳥の矯捷に比して一種雄偉の感を起さしむ。彼の荒野を彷徨ふ虎豹、戰場を馳驅する駿馬の如き、皆他の動物に見るべからざる偉觀なり。

獸の畫方 獸の畫方も亦他の動物の攻究に同じく、まづ部分を明かにして其の姿勢の變化に通ずるを要す。部分の主なるものは頭・脚・尾の三部なり。殊に前肢と後肢とは之が描寫に於て往々誤ることあれば、其の區別を明瞭に攻究すべし。(各方面より見たる獸(馬))



獸るた見りよ面方各



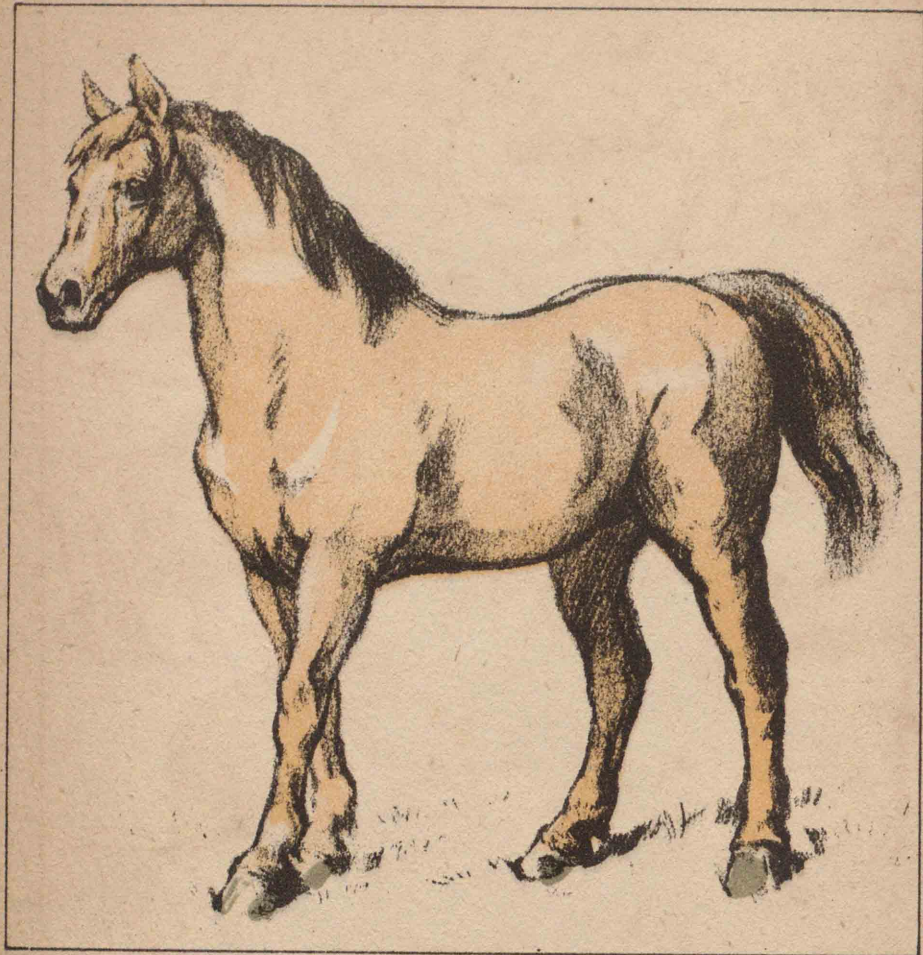
獸の模様化^{△△△△} 本章に於ては獸の種類を多くして其の模様化の例を略したりと雖も、前卷動植物の各章に於て説き來たれる例に同じく、古今東西に獸の模様化の例尠しとせず。是亦甚だ興味ある攻究なれば、各自は前例に倣ひ、各種の獸類につきて模様化を試むべし。(獸)

陽炎に

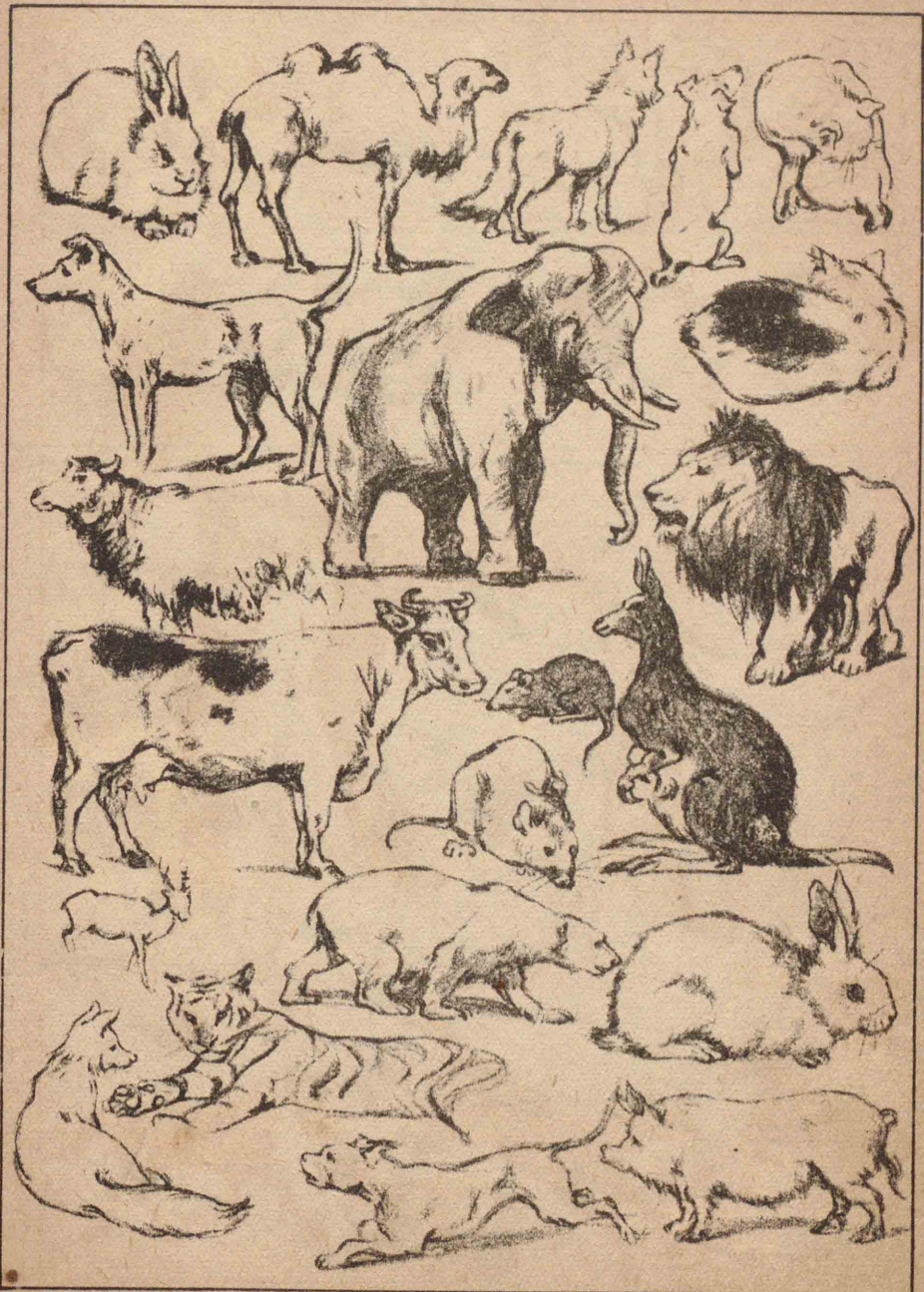
寝ても動くや

虎の耳

(其角)



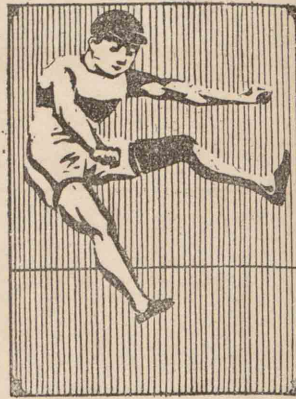
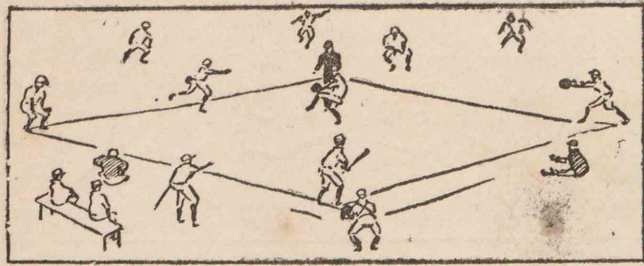
馬



獸



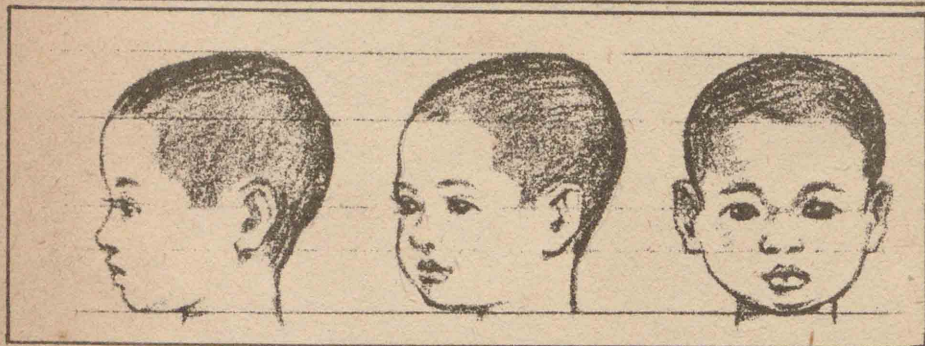
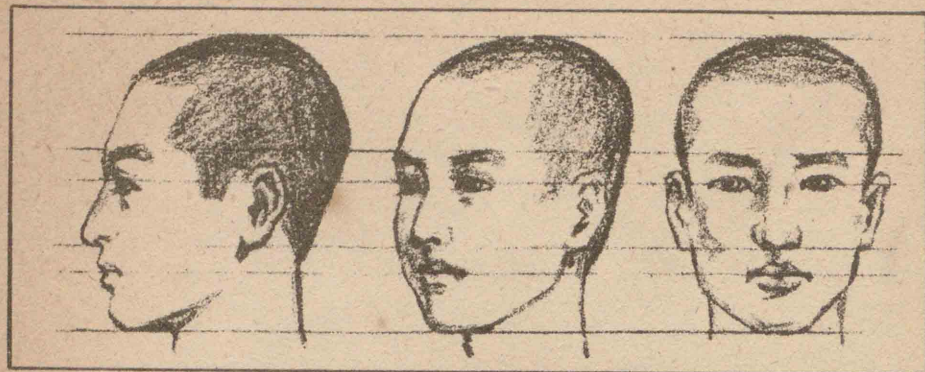
獸 (畫洋西・畫本日)



第三章 人物

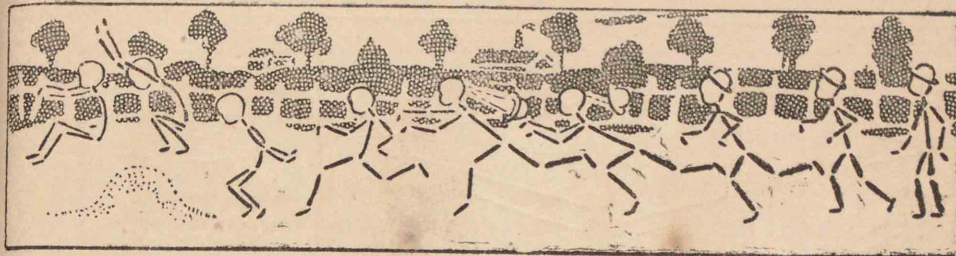
動物は其の性質と其の感情とを最もよく其の顔に於て表はすものなり。顔はすべて微妙なる組織を有し、單に耳・目・口・鼻の存するのみならず、精細に彼此の區別を具へ、委曲に喜・怒・哀・樂の感情を表示す。故に其の攻究は複雑にして困難多し。殊に人は顔の組織他の動物に比して一層精緻なれば、其の性格を表はし、其の感情を示すこと、また更に顯著なり。是を以て人物畫に於ては顔のみの攻究が一の課程をなせり。

顔の畫方 顔の形狀は表情と之を見る方面とにより



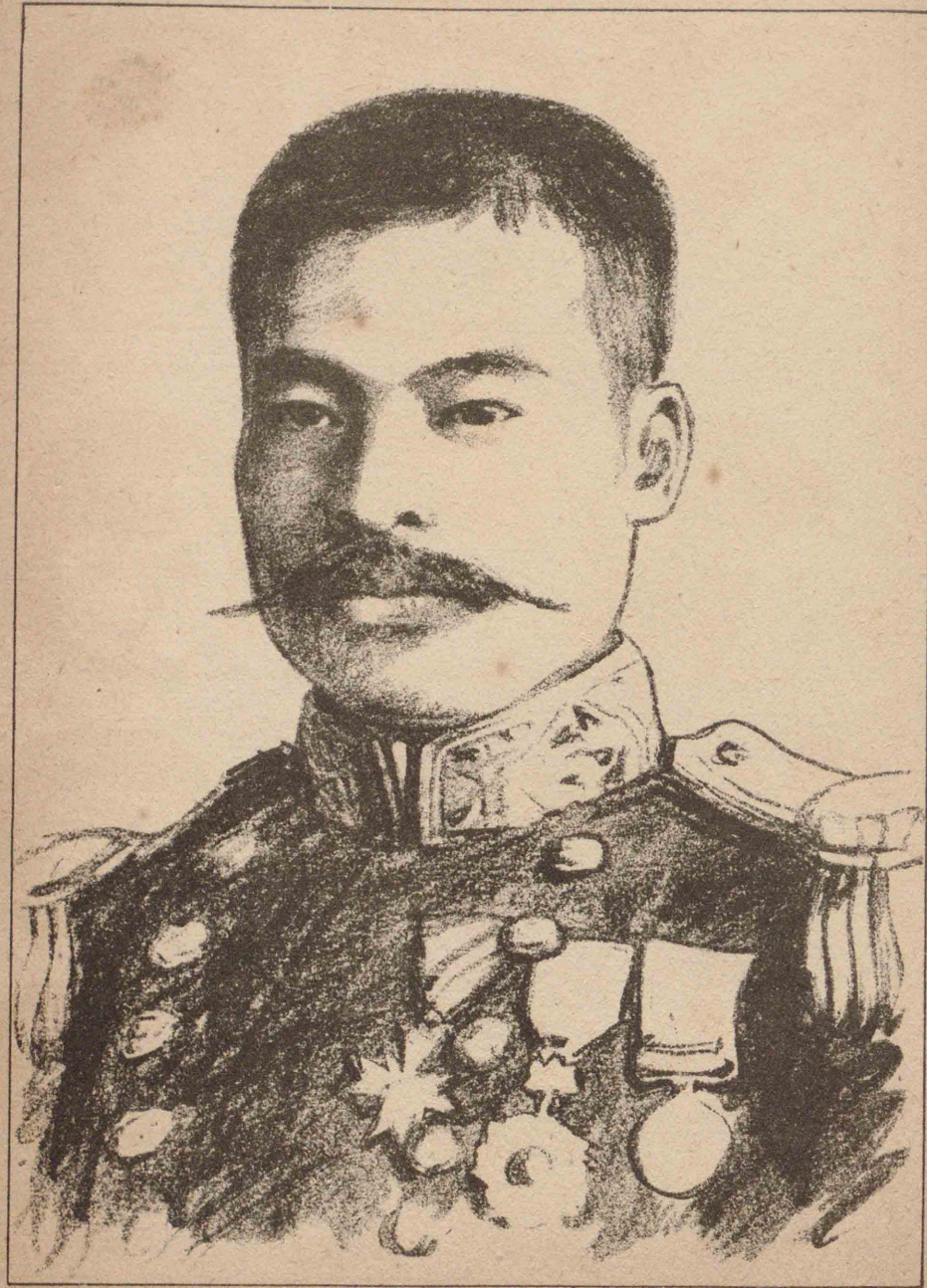
顔の子男

七 廣 瀬 中 佐 辭 世
 再 期 成 功
 一 死 心 堅
 含 笑 上 船

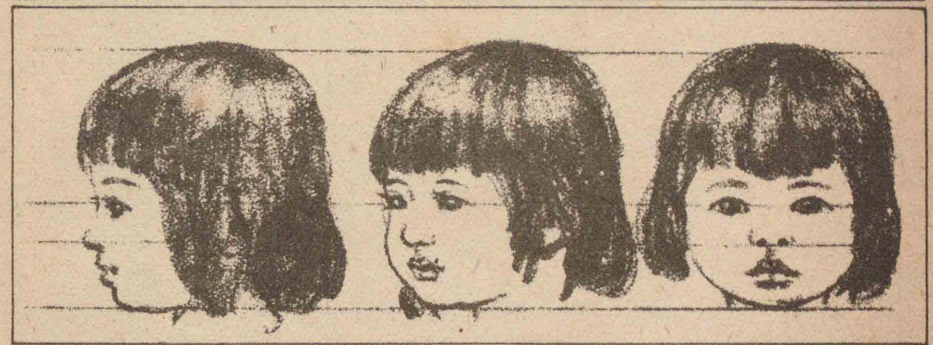


て異なるものなれば、之を畫くには此の二様の攻究を
 なさざるべからず。然れども表情の攻究は初學者に取
 りて甚だ困難なる學修なれば、各自は、先づ誤なく寫す
 ことを以て研究の第一歩とせざるべからず。顔面に於
 ける各部の割合概要左の如し。(男子の顔(女子の顔))

- 眼の位置 顔の上下兩端の中央
- 鼻先の位置 眼と顔の下端との中央
- 口の位置 鼻先と顔の下端との三分一の處
- 眉と眼との距離 鼻先と口との間の距離に略等し
- 耳の位置 略眉と鼻先との間



佐中瀬廣

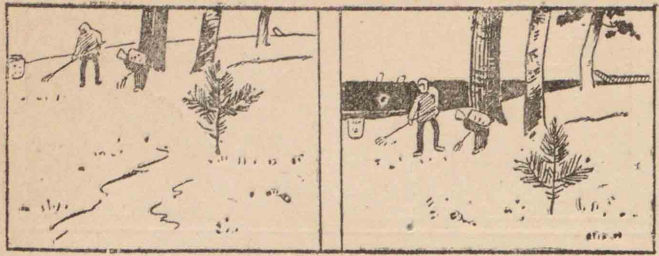


顔の子女



子敦所稅

見れば自然の
風景あり



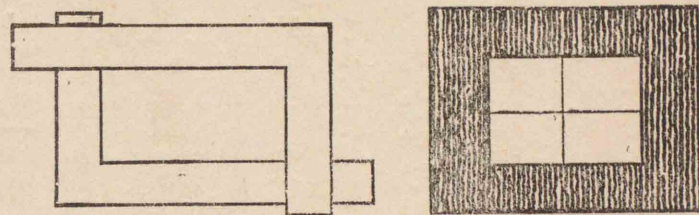
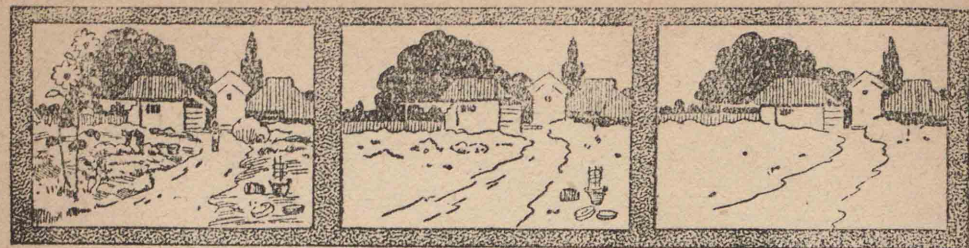
第四章 景色

景色

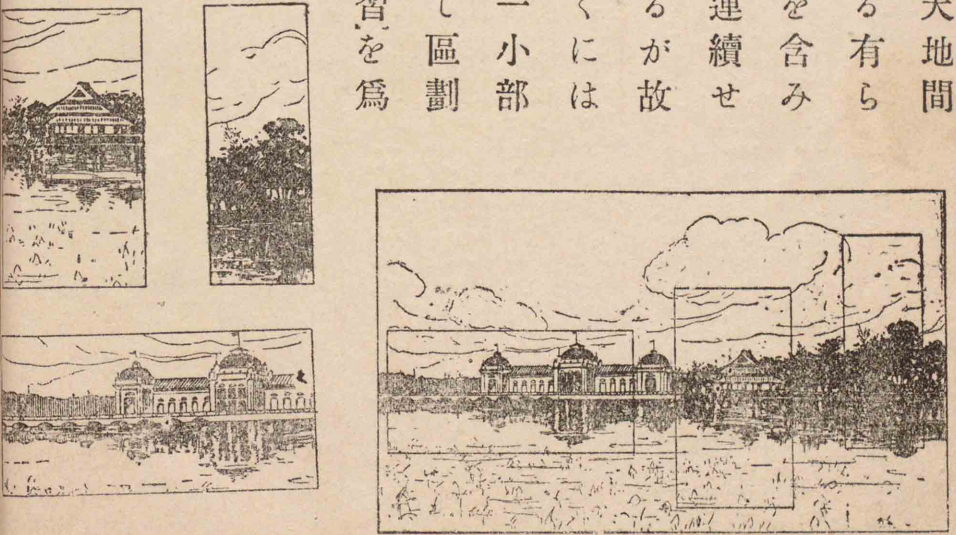
人の塵懷を洗ひて高潔なる趣味を覚えしむるもの景色に如くはなし。野外に出で、動植物を採集して、自然に親しむの興味をさとれる者は、更に亦景色を畫くの趣味を解すべきなり。

景色の畫方 景色の一部としての家と樹木との畫方は、既に前卷に之を示せり。此の他猶山あり、水あり、雲あり、烟ありて、其の材料甚だ多し。今其の中の主なるものを説明せんが爲に左の圖を掲げたり。

(雲・烟・水・船) (海・瀧)



景色は天地間に展開せる有らゆる物象を含みて無限に連続せるものなるが故に、之を畫くには常に其の一小部を限定して區劃す之が實習を爲すには、見取枠



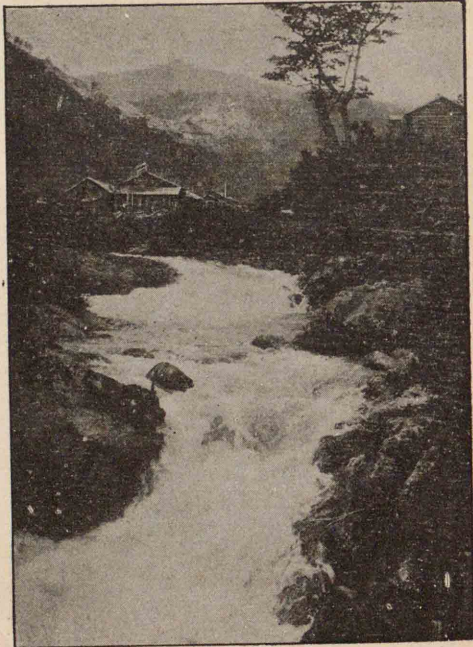
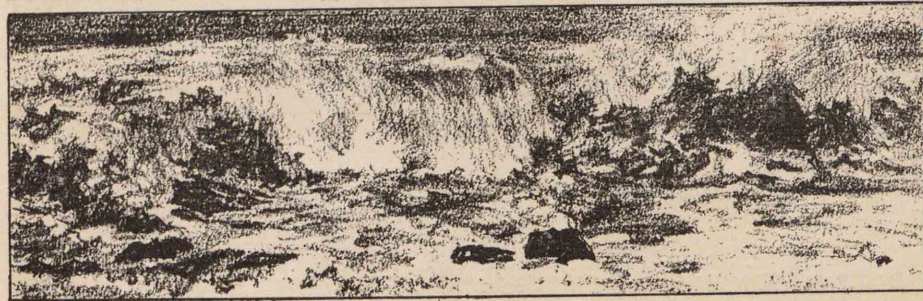
備と爲すべし。

景色の色彩 景色に於て最も興味あるは、時刻に因りて色彩の變化すること是なり。晝間何等の感興をも惹かざりし景色も、夕陽西に春づくに及べば、乍ち無限の美觀を現はし、又暮色蒼然として四方を包むに至れば、更に新たなる美觀を生ず。天地間の物象が、光線の多少によりて如何に色彩の變化に影響を受くるかは、實に興味ある研究資料なりとす。(朝晝夜)

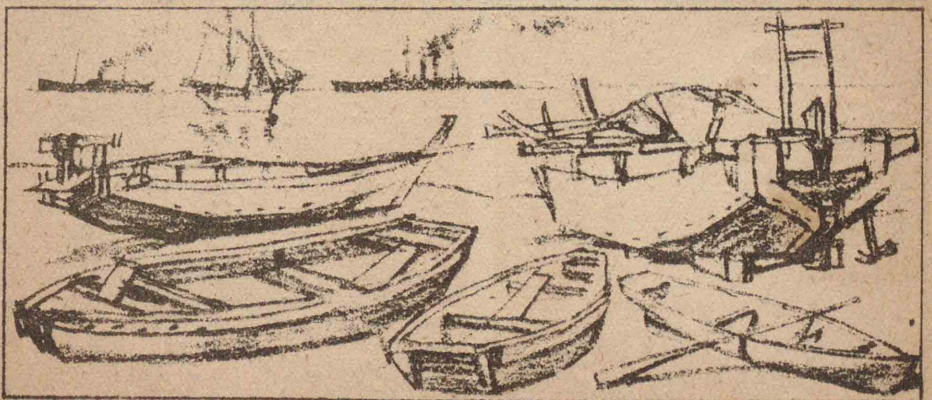
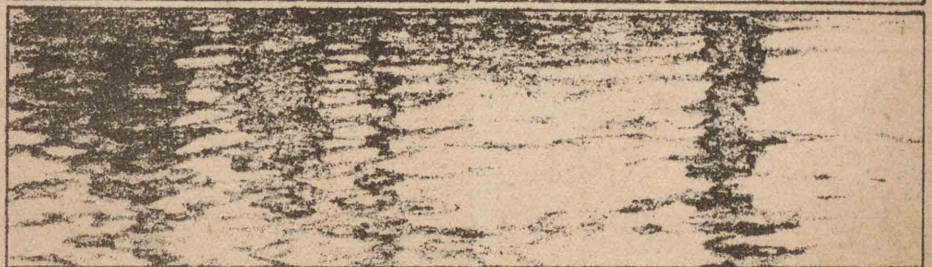
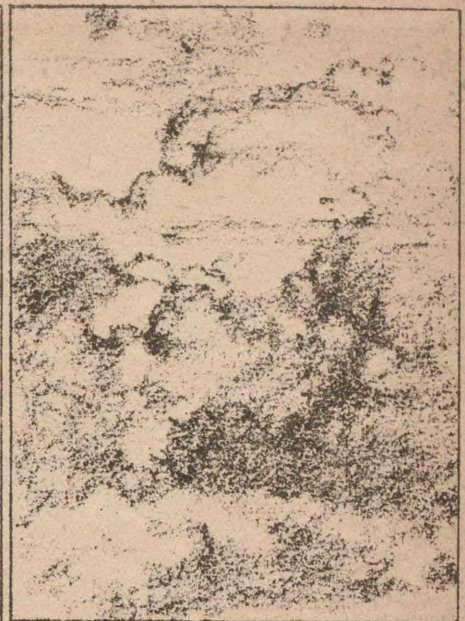
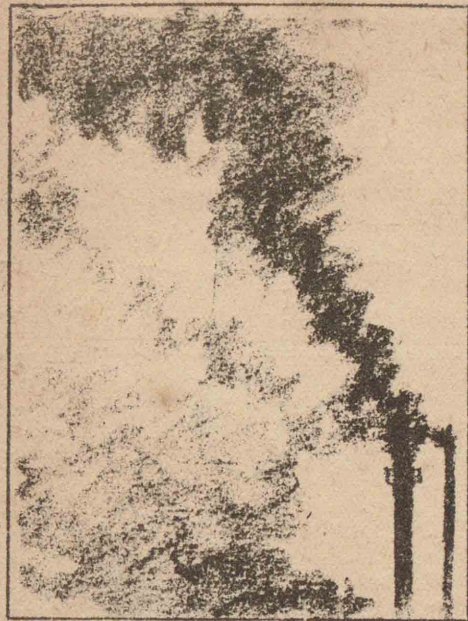
夕立のまだ晴れやらぬ雲間より
同じ空とも見えぬ月かな

(俊惠法師)

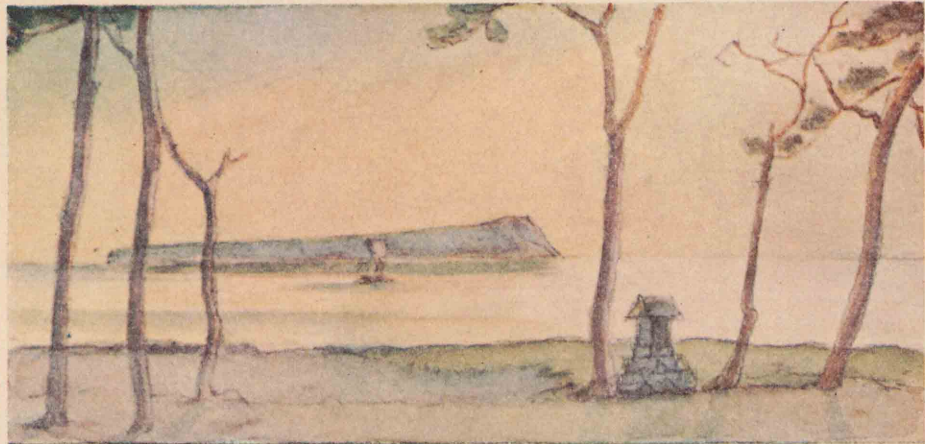




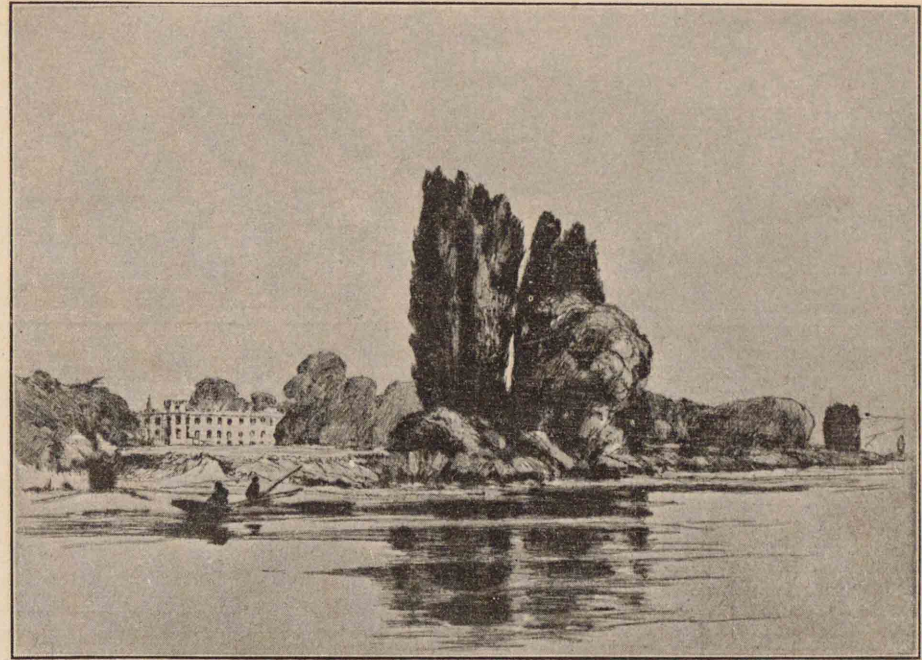
瀧・海



船・水・烟・雲



夜·晝·朝



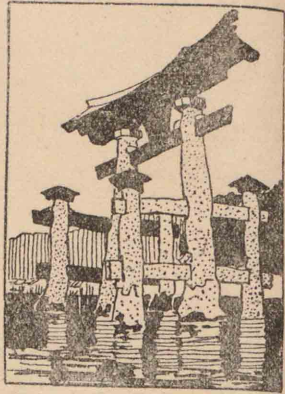
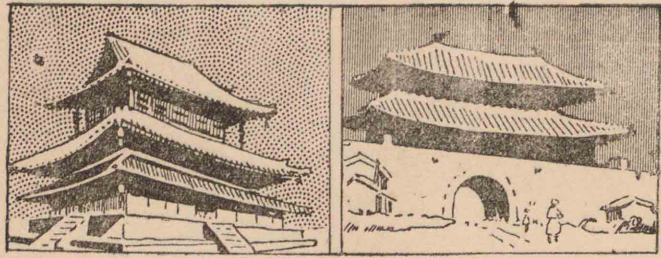
邊水



朝の船



山の畫

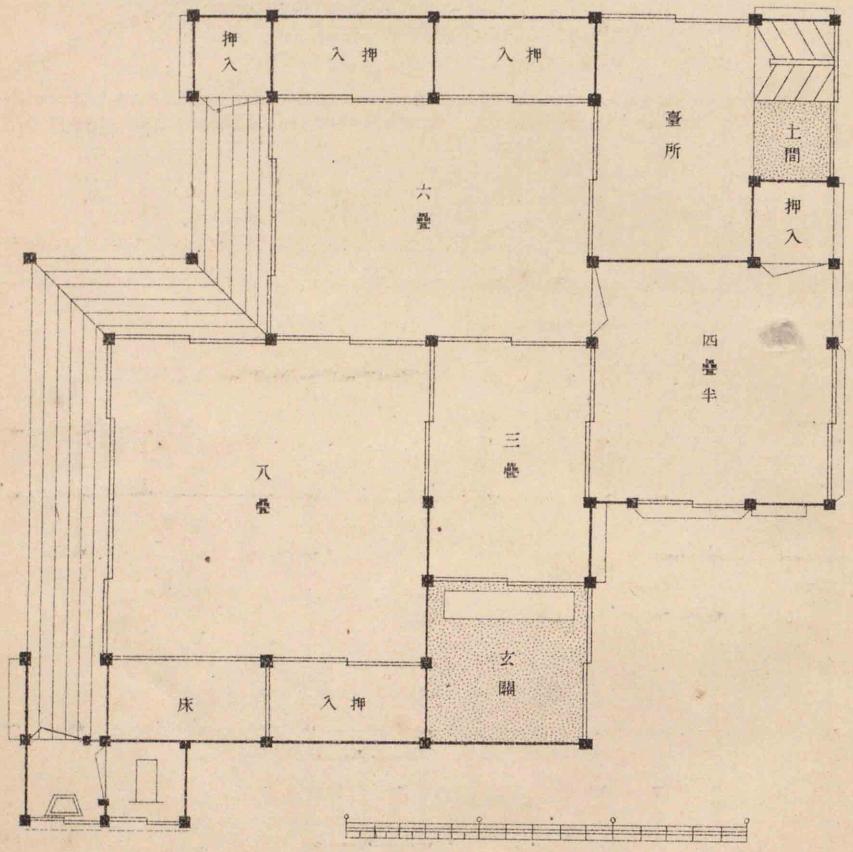


第五章 建築物

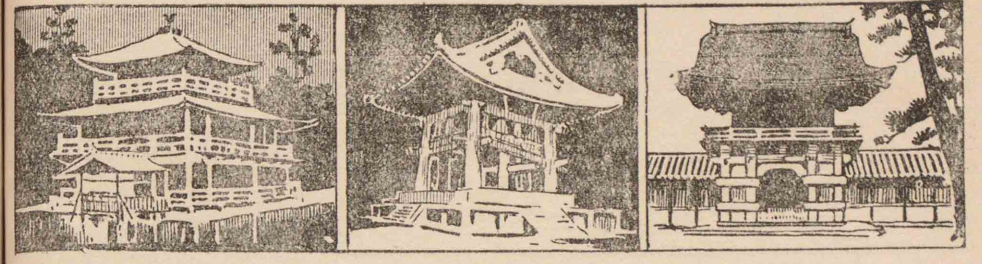
家屋

家屋は人の生活上衣食と並びて大切なるものゝ一にして、獨り雨露を凌ぐに必要なるのみならず、郷土の風物が人心を支配すること至大なるが如く、住宅の結構如何は此の中に住するものゝ精神と身體とに影響する所尠からず。故に人の住宅は實用上の便否を計りて、専ら間取の巧拙、採光・通風の適否等に注意し、更に内外の裝飾に意を用ひて築造すべきものなり。

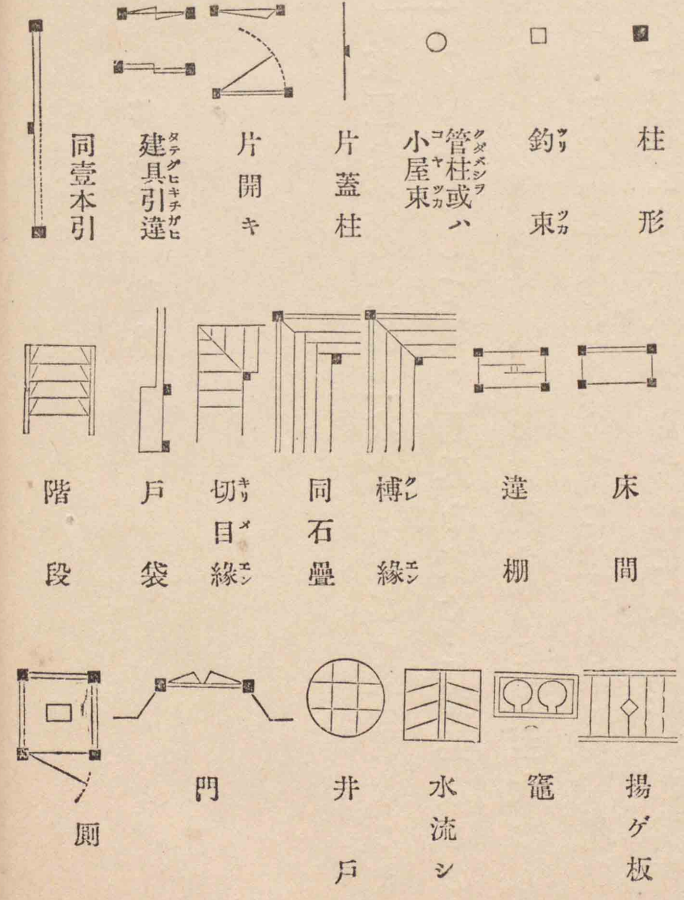
本章に挿みたる二個の建築圖に依りて、如何に上記



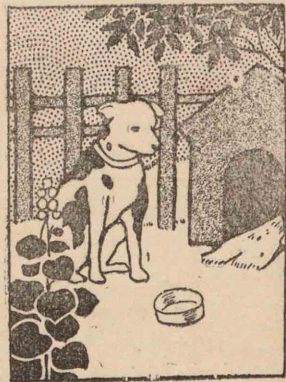
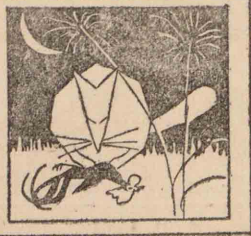
取間の家



本日流建築製圖符號



の條件が充たされたるかを攻究し、且其の製圖の方法を會得せよ。而して各自は新たに家屋の間取を實際に就き或は考案によりて、左記の符號を適用して試みに製圖せよ。(家の間取)(家の正面と平面)

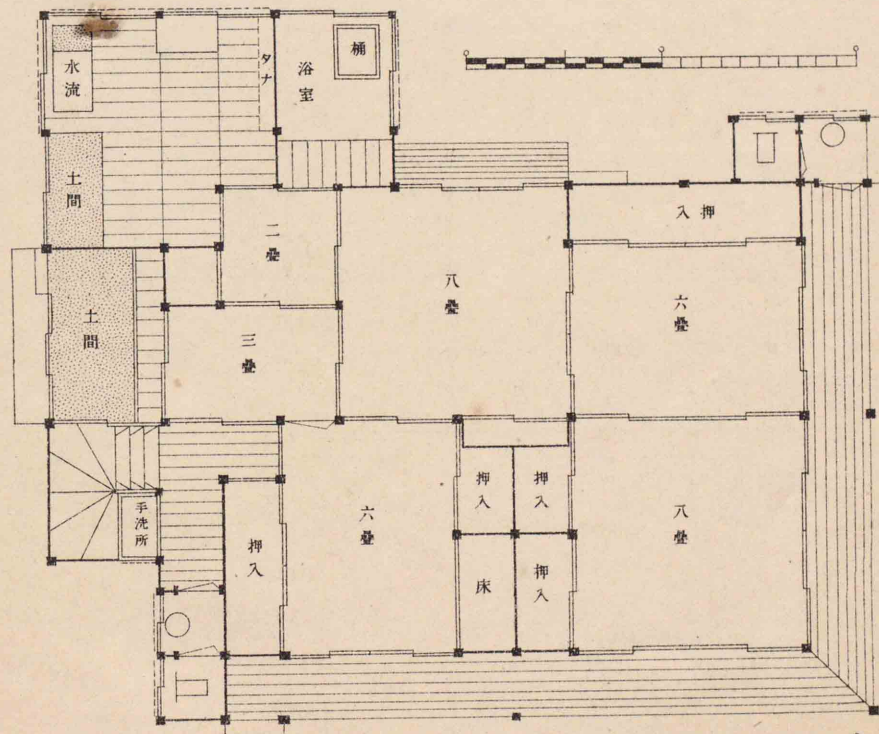
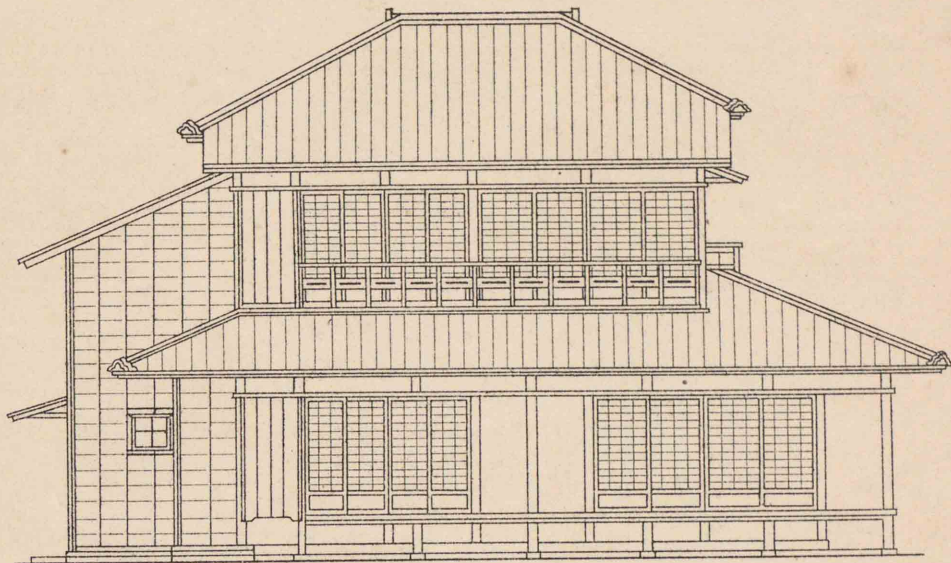


平面圖案

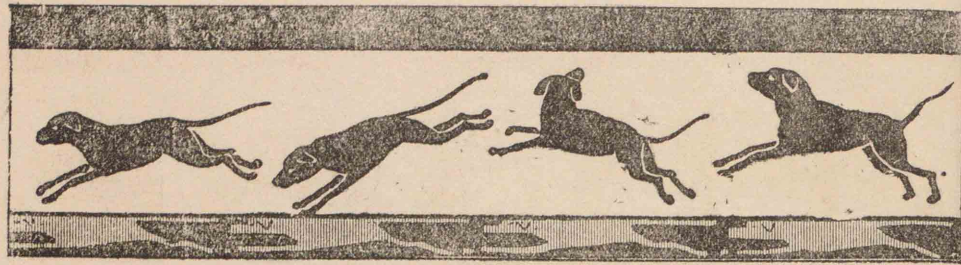
平面圖案中規則正しき模様は、既に各種の練習を重ねたるが故に、本章に於ては模様の各方面を領會せしめんが爲に、更に不規則なる模様について説明すべし。

文字の應用 文字を應用すべき圖案にて、日常之を用ふべきものは、(一)校内にて催すべき會合に於けるプログラムの意匠、(二)各種の掲示・廣告に應用すべき意匠、(三)各種の表類(四)書冊の表紙、(五)書冊の内部の裝飾に使用せらるゝ圖畫の意匠等なり。是等の二三は既に前に掲

第六章 圖案



家の正面と平面



考し、室内の裝飾用として模様と繪畫とを配置して、美的の張交を試みよ。又各自の畫きたる成績物を取りて、之を臺紙に貼附するも亦張交研究の好作業なり。

(畫の張交)

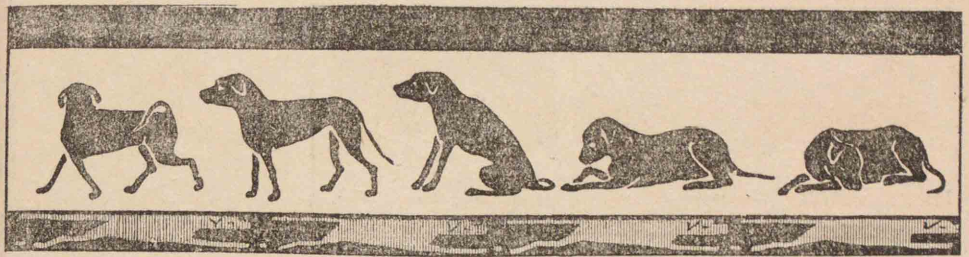
模様の應用^{△△△△} 模様を立體に應用するには種々の方法あり。挿畫には左の各種の例を示したるが故に、立體に模様の應用を試みんとせば是等の何れかを選びて實習すべし。(模様の應用(立體))

一、筆立 側面を展開して模様を入れたるもの。

二、茶碗 側面の三方面を並列して模様を入れたるもの。

三、花瓶 曲面を展開して模様を入れたるもの。

四、硯箱 側面を底の周圍に展開して模様を入れたるもの。



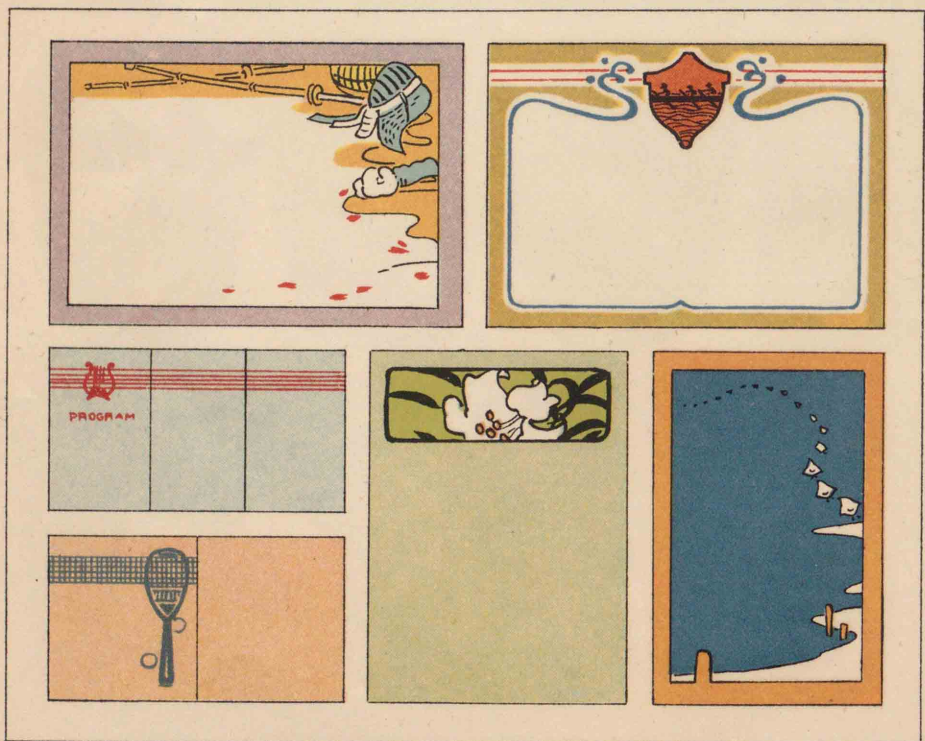
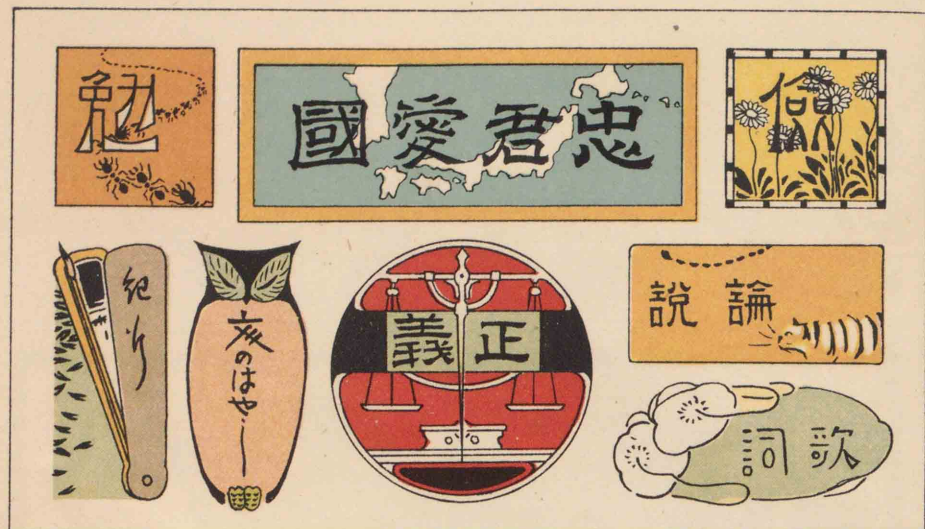
げたれども、本章挿畫に於て猶殘れる二三の例を擧げたり。

總べて文字に裝飾を加ふることは、人の注意を之に集め、且快感を起さしむべきものなれば、卑俗に流れず、難解に陥らざる範圍に於て、美的の工夫を運らさざるべからず。挿畫の例に倣ひて試みに其の二三を工夫せよ。(文字と模様)

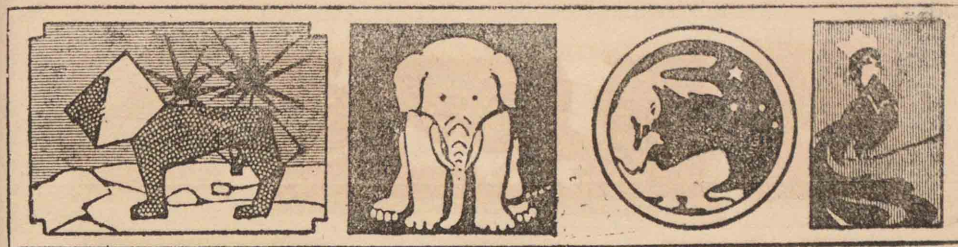
繪畫模様^{△△△△} 圖の組織は繪畫の如くにして、其の形・明・暗・色彩の一部或は全部が模様化されたるものあり、之を繪畫模様といふ。挿畫に其の作例と應用例とを示したれば、之に依りて各自は又更に工夫を試みよ。

(繪畫模様と其の應用)

畫の張交^{△△△△} 圖畫の張交は間隔による美の攻究にして、専ら襖・屏風・衝立・額面・畫帖等に應用す。各自は挿畫を參



様模と字文



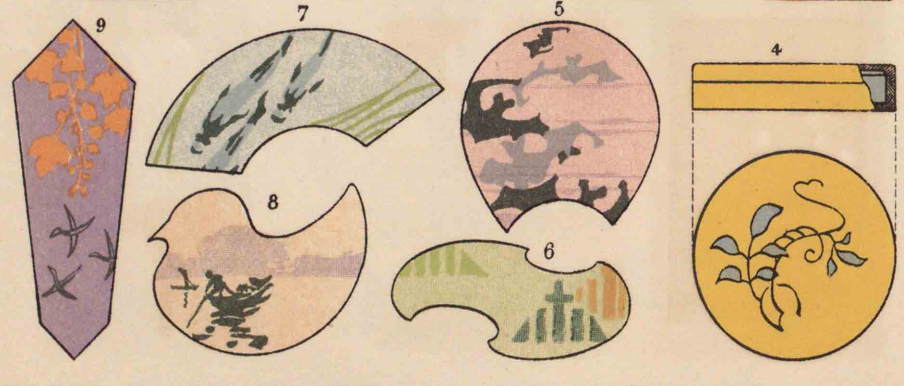
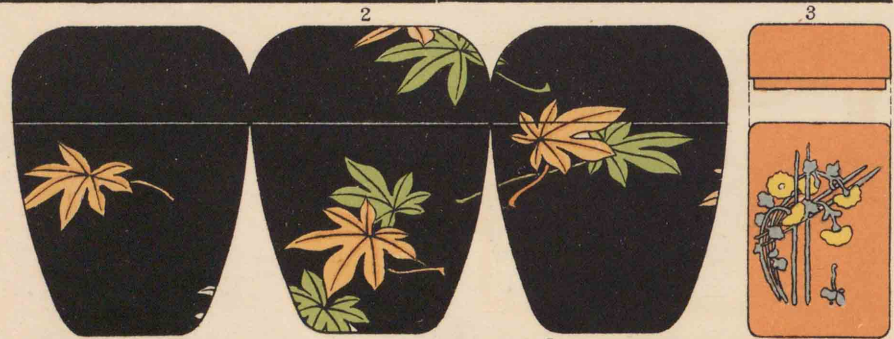
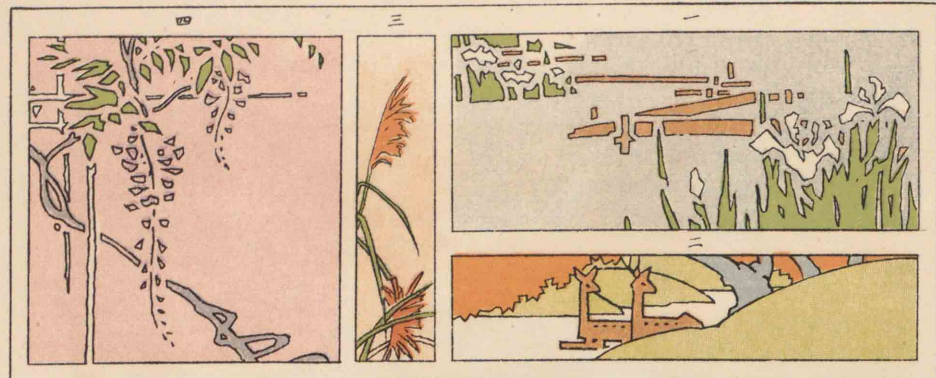
五、皿 正面圖と平面圖とにて模様
の關係を示したるもの。

六、花瓶 模様のみ展開したるもの。

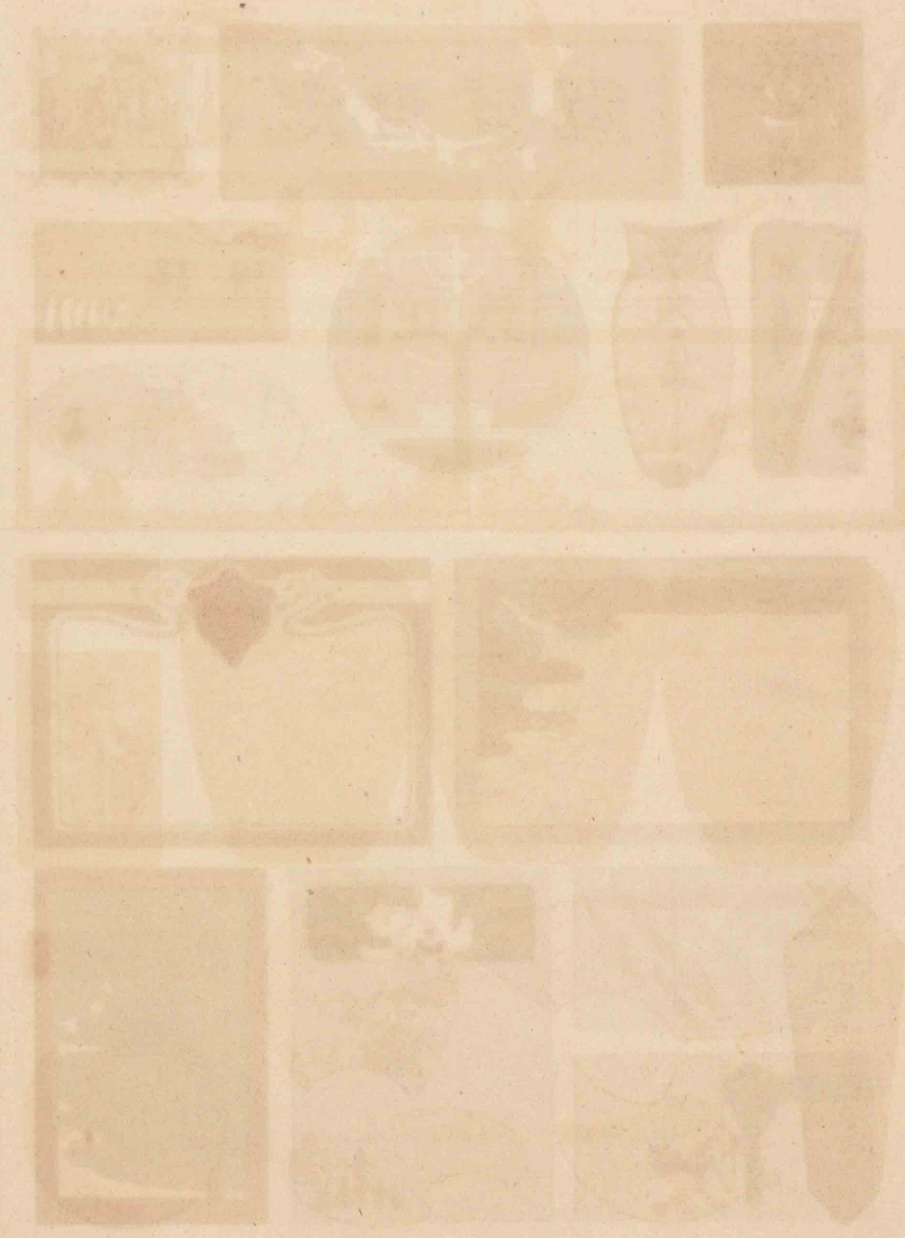
鼎

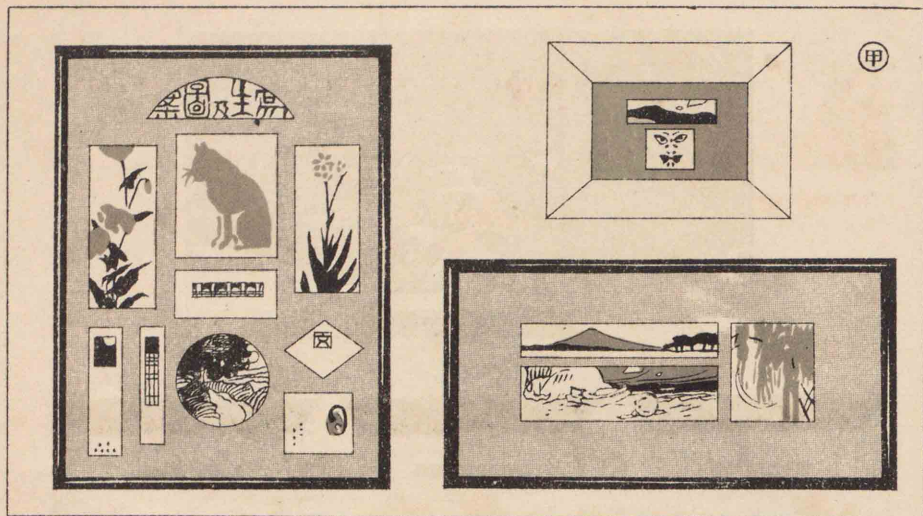
製作原從ニ造化ニ分
金鉉雲覆山河景
誰信腹虛容ニ百斛
聖人有德堪爲用

堪ニ調ニ五味ニ可ニ要ニ君
玉耳螭蟠卦象紋
當レ知ニ躰ニ重載ニ千鈞
伊尹扶湯立ニ大勳

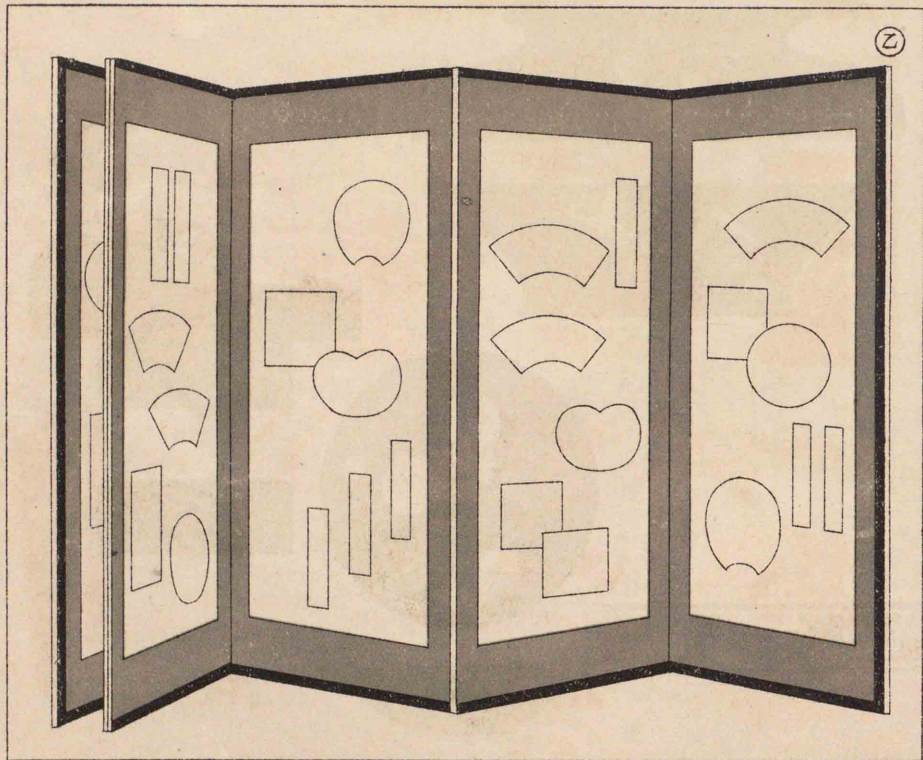


用應の其模様畫繪



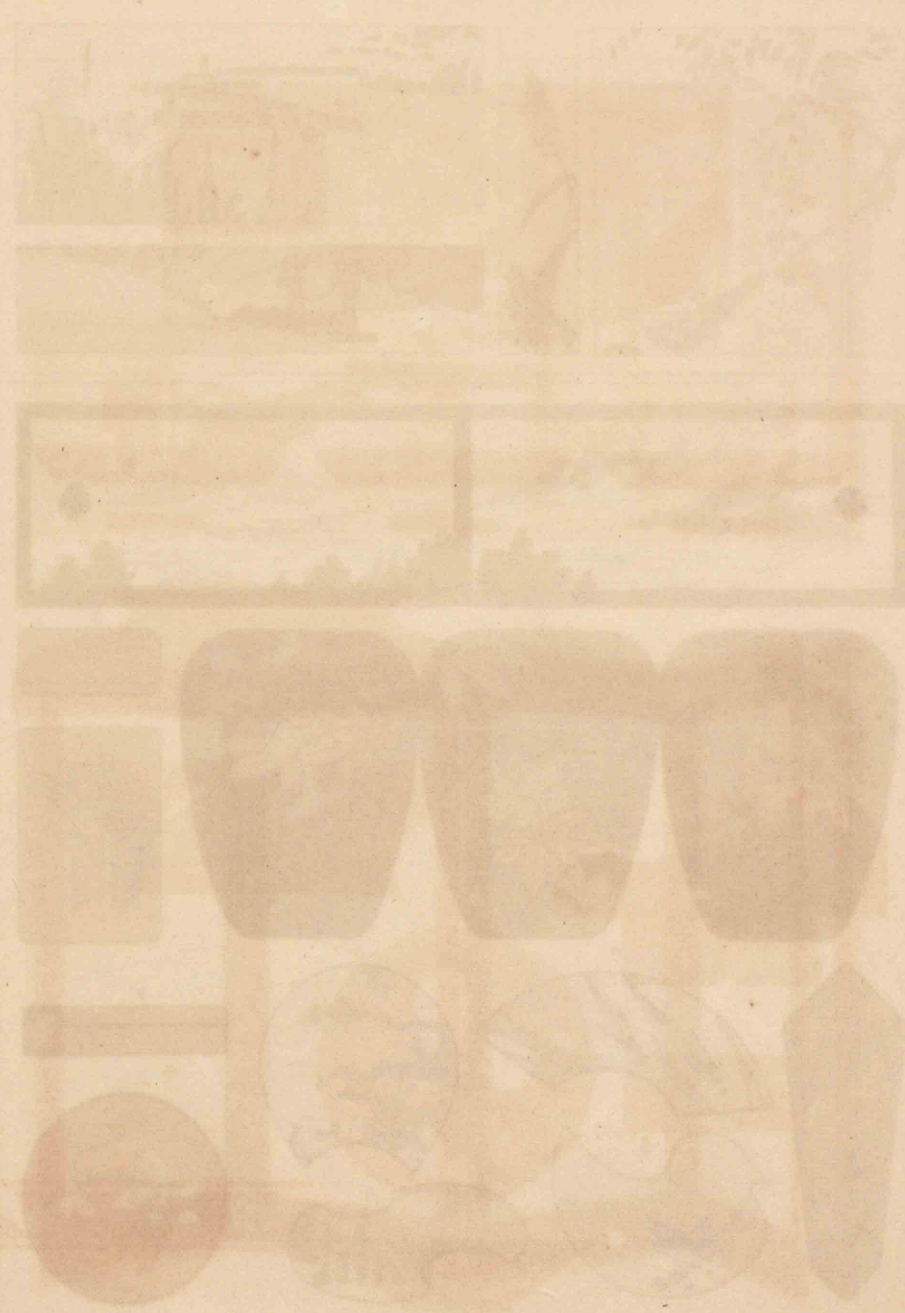


甲



乙

交張の書



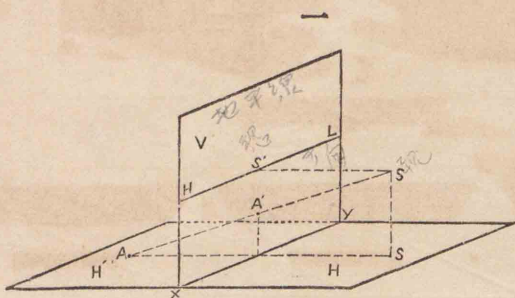
透視圖法

透視圖法
上の規約

第七章 幾何圖

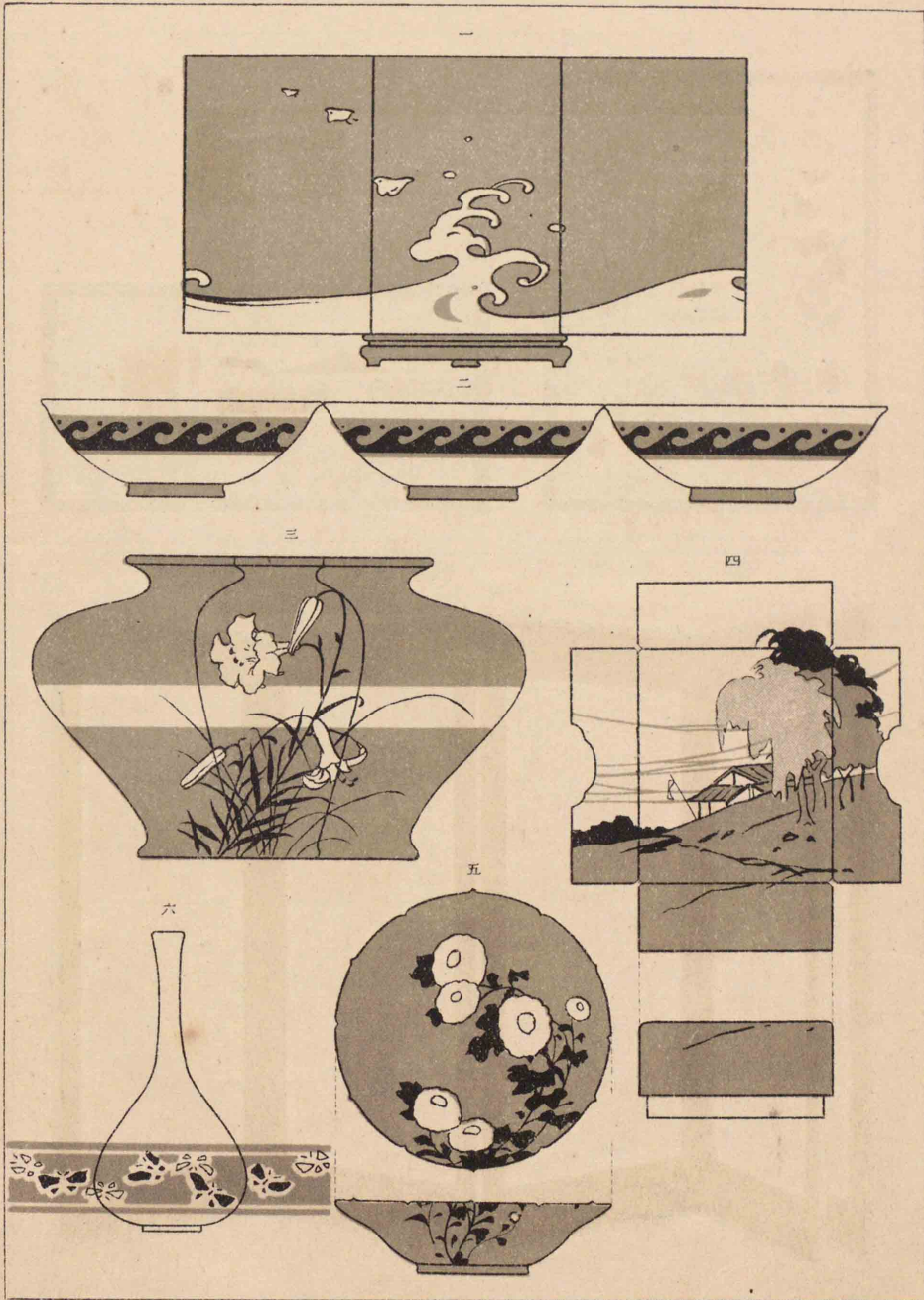
透視圖法

透視圖法は、投影圖法の水平畫面と直立畫面とに於けるが如く、(一)圖に示すH'Hなる一水平面と、之に垂直なる平面Vとを設け、物體AをH'面のA位置に置いて、之をH面のSなる位置より眺め、V面に於てA'の形を畫き表はす方法なり。



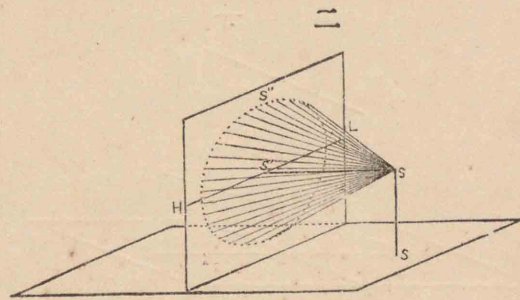
此の圖法に於ては、V面を畫面、H'H面を基面(又は地平面)、畫面と基面との交線XYを基線(又は畫線)といふ、眼の位置Sを視點、人の停止せる點Sを停點、視點Sより畫面に垂直なる直線と畫面との交點S'を視心、又心點、視點Sと

視心S'とを連結せる直線、及び物體と視點とを連結せる直線を視線といふ。數多の視線中SS'の視線を特に方向線と稱す、Sを通じて地平面に平行に畫



(體立) 用應の様摸

視域・視
錐・視角

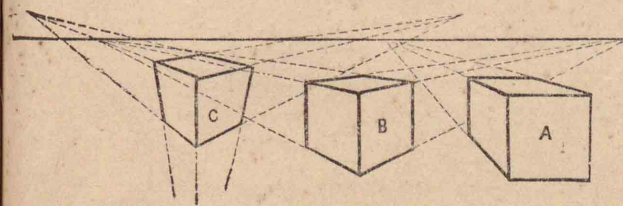


面内に畫けるHLを地平線といふ。地平線とは常に平行なり。

此の圖法にて畫く圖畫は、視心Sを中心として畫面を透視して物體を畫くものなれば、同時に畫面の全部を無限に見ることが能はず。故に畫面の後方にある物體を認識し得る範圍を(二圖)に示す如く、通常SS'の視線とSに於て三十度の角度をなせる直線SS''がSS'を軸として回轉して包圍せる圓錐狀の範圍内とす。

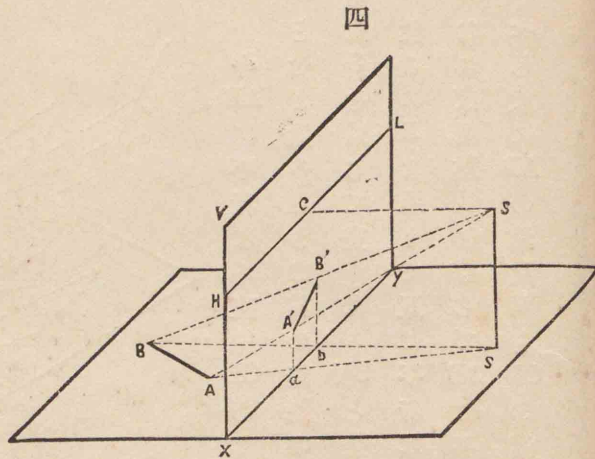
此の物體を認識し得る範圍内を視域といひ、其の圓錐狀を視錐といふ。視錐の頂點に於て視線の挟む角を視角といふ。

(三圖)の如く、立方體の相對する二面が畫面に平行なる場合の透視圖法を平行透視圖法といひ、(B)の如く、立方體の垂直なる四つの稜が畫面に平行にして、總べての面が平行ならざる場合の透視圖法を成角透視圖法(又は有角透視圖法)といふ。(C)の如く、立方體の總べての稜と總べての面が畫面に平行ならざる場合の透視圖法を傾斜透視圖法(又は斜透視圖法)と稱す。



直線の透
視圖

消點の位
置



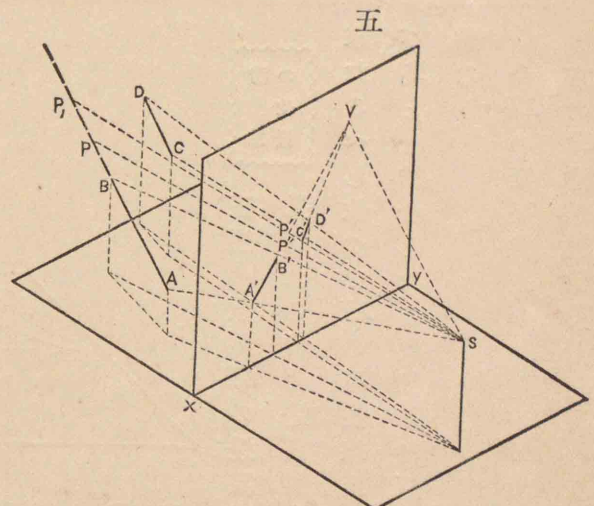
直線の透
視圖

今假に地平面上にある(四圖)のABなる直線の透視圖を畫くものとする時は、(四圖)の如く、停點SとA及びBとを結合して基線XYとa及びbにて會せしめ、次にA及びBと視點Sとを結合し、更に又a及びbより地平面に垂直なるaA'、bB'なる垂直線を書き、ASBSとA'B'にて會せしめ、A'とB'とを結合する時は、A'B'はSよりABを眺めたる時VXYなる畫面に現はれたるAB直線の透視圖なり。

(五圖)の直線ABの透視圖を長したる者の透視圖も亦、A'B'をB'の方向に延長したる直線上に來たるべし。依つてABの延長線上の任意の點P、P1の透視圖は、視點SとP及びP1とを結合したる視線と畫面との交點P'、P'1にして、之はA'B'の延長線上の點なり。

今ABの延長線上のP點がB點を漸次に遠ざかるものと假定する時は、遠き方のP點と視點Sとを結合したる視線がAB直線となす角は、B點に近き

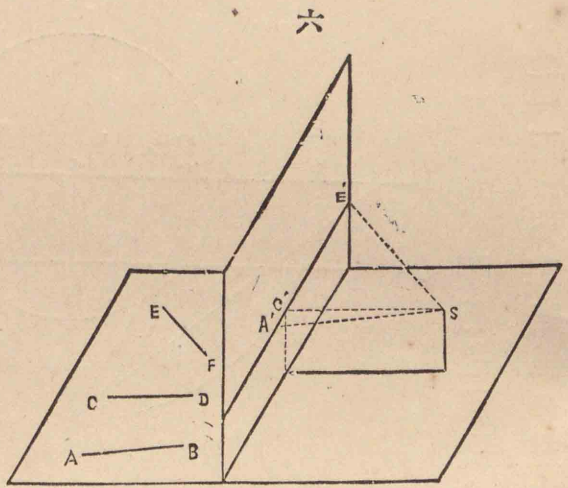
透視圖の直線が畫面に近づくにつれて、消點が遠くへ移動する。



五
 方のP點と視點Sとを結合したる視線が直線ABとなす角より小なり。此の理によりて、ABの延長線の無限の距離にある點と視點Sとを結合したる視線がABとなす角は、無限に小にして、終に視線はABと平行なる直線となるべし。此の無限の距離にある點と、視點Sとを結びたる視線と畫面との交點は、視點Sを通じてABに平行なるSVと畫面との交點Vにして、此の點は、A'B'の延長線上にあり。此の點を直線ABの消點、又は消失點と稱す。

今ABに平行なる直線CDありと假定し、之をDの方向に無限に延長したりとせよ、然るときは、其の無限の距離にある點の透視圖は、直線CDに平行に視點Sを通じて畫きたるSVと畫面との交點なること、前に説明したるが如し。然るに、Sを通りて互に平行なるAB及びCDに平行なる直線は、唯一あるのみなれば、視點Sを通じてABに平行なるSVと、CDに平行なるSVとは、全く一致すべし。故にABの消點VとCDの消點Vとは、畫面上の同一の點なること明なり。此の理により、畫面に平行ならざる總べての平行線の消點は、畫面上の一の點に於て相會するを知るべし。

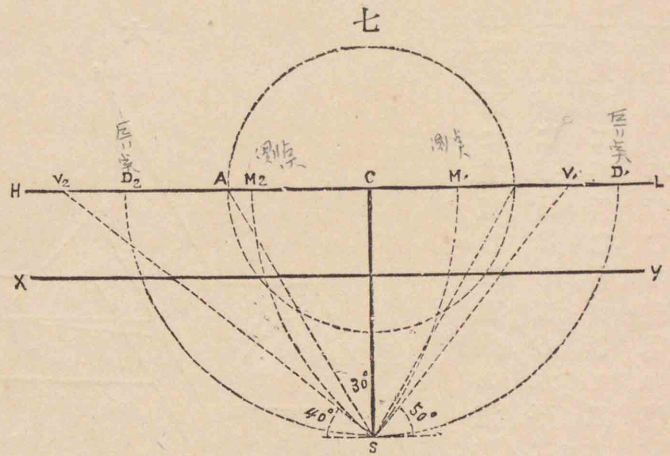
消點に關する法則



六
 消點に關する法則を示せば左の如し。
 一、畫面上に於ける直線の消點の位置は、視點を通じて定直線に平行に畫きたる直線と畫面との交點なり。
 例へば(六)圖AB直線の消點は、視點Sを通じて之に平行に畫きたる直線SA'と畫面との交點A'點にして、直線CDの消點は之に平行なる直線SC'と畫面との交點C'點なり。直線EFの消點はEFに平行なる直線SE'と畫面との交點E'なるが如し。

二、畫面に垂直なる直線の消點は、視心と一致す。
 三、畫面に平行ならざる水平なる直線の消點は、常に地平線上に現はる。
 四、畫面に平行ならずして且水平ならざる直線の消點は、地平線外に現はる。
 五、畫面に平行なる直線の消點は、畫面上の無限の距離に於て現はる。故に此の直線の透視圖は、定直線に平行に現はる。
 六、水平にして畫面と四十五度の角をなす直線の消點を距離點(又距點)とい

平行透視
圖法
例題一



ふ此の點は、物と畫面との距離を測るに用ふ。
七、成角透視圖法に於て、直線の長さを測定するために特に設くる直線の消
點、之を測點と稱す

以上の諸則を應用して、紙面上に畫き表
はすには(七)圖の如くす。

HLは地平線XYは基線XYより上は總べて
畫面Sは停點にして又視點Cは視心SCは
方向線CAを半徑としCを中心として畫き
たる圓形は畫面上の視域、 D_1D_2 はCより方
向線の長さに等しく取りたる點にして距
離點、 V_1V_2 は水平にして畫面と五十度と四
十度との角度をなしたる直線の消點、 M_1 は
 V_2 より V_1S に等しく、 M_2 は V_1 より V_2S に等しく
取りたる點にして測點なり。

平行透視圖法

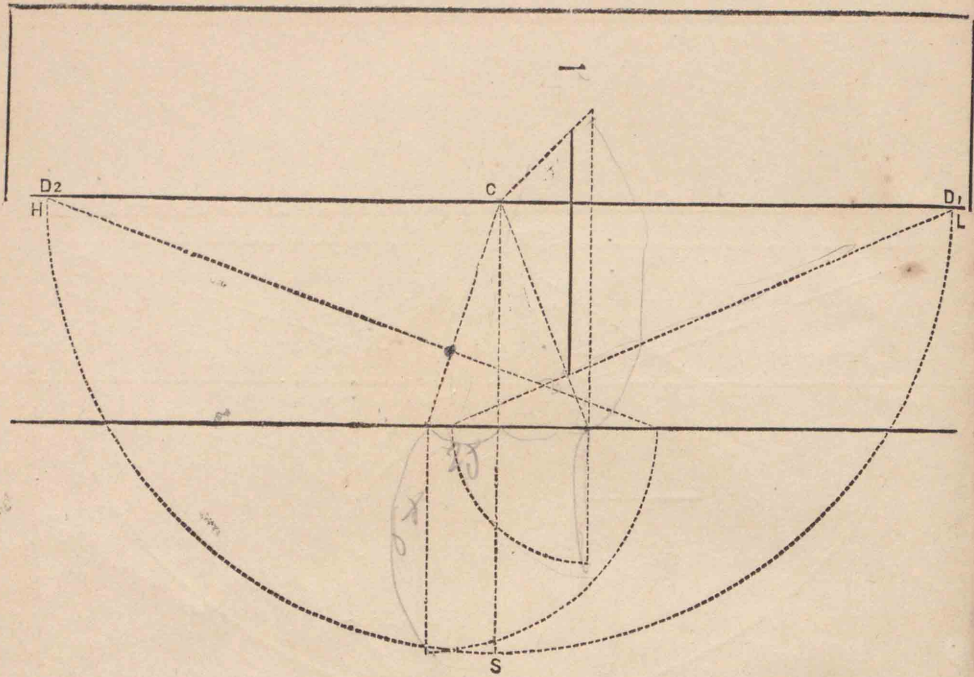
例題一 (甲) 方向線の左方一尺五寸、畫面の後方五尺の處
の地平面上にある點の透視圖を畫く法。

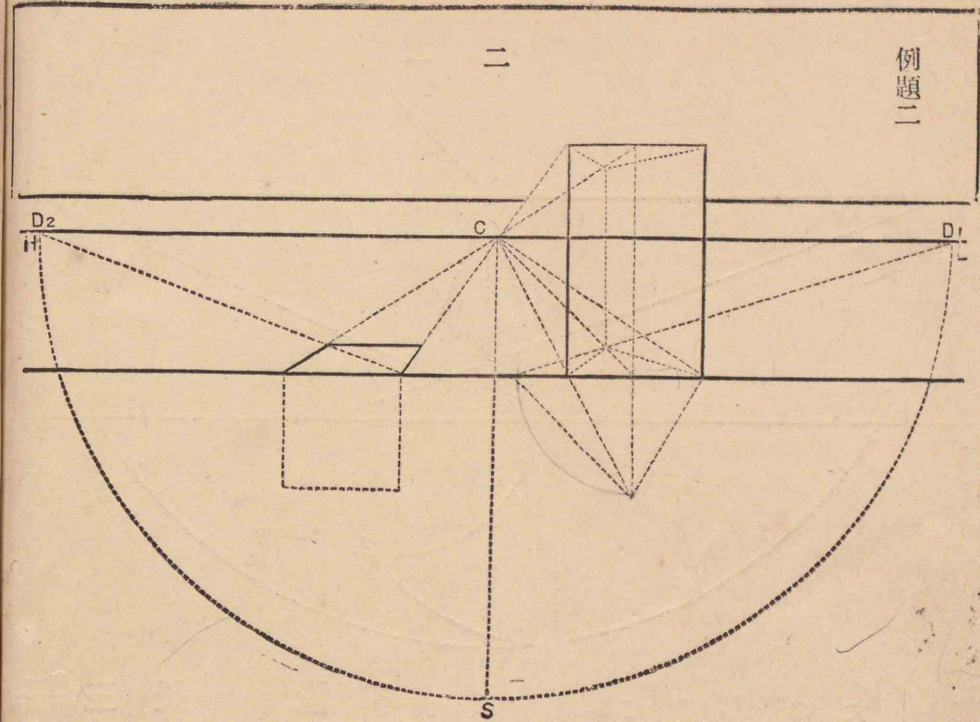
(乙) 方向線の右方二尺、畫面の後方
三尺の處にて、地平面上に直立せる
長さ七尺の直線の透視圖を畫く法。
但し地平線の高さ五尺、視點の位
置は畫面の前方一丈離れたる處に
あるものとする。

應用問題 左の點及び直線の透視圖を畫
け。

(甲) 方向線の右方二寸、畫面の後方六寸にし
て地平面上より七寸の高さにある點の透視
圖。

(乙) 方向線の左方二寸五分、畫面の後方一寸
の處より方向線に平行に地平面上に、横はり
たる長さ五分の直線の透視圖。
但し地平線の高さ五寸、視點の位置畫面の
前方一尺の處にあるものとする。





例題二 (甲) 地平面上にある一
 邊五寸の正方形あり。其の一邊畫
 面に接し、其の右邊方向線の左方
 二寸の處にある透視圖を畫く法。
 (乙) 地平面上に直立せる端面の
 一邊三寸高さ五寸の直正三角墻
 あり。其の一側面畫面に接し、其の
 左方の稜方向線の右方一寸五分
 の處にある直正三角墻の透視圖
 を畫く法。
 但し地平線の高さ三寸、視點の
 位置畫面の前方一尺の處にある
 ものとす。

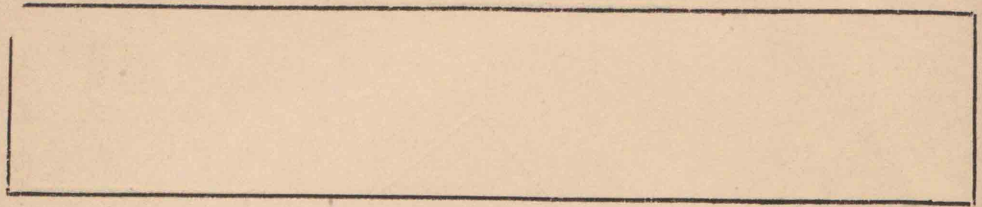
應用問題 左の直正四角墻と直正四角

錐の透視圖を畫け。

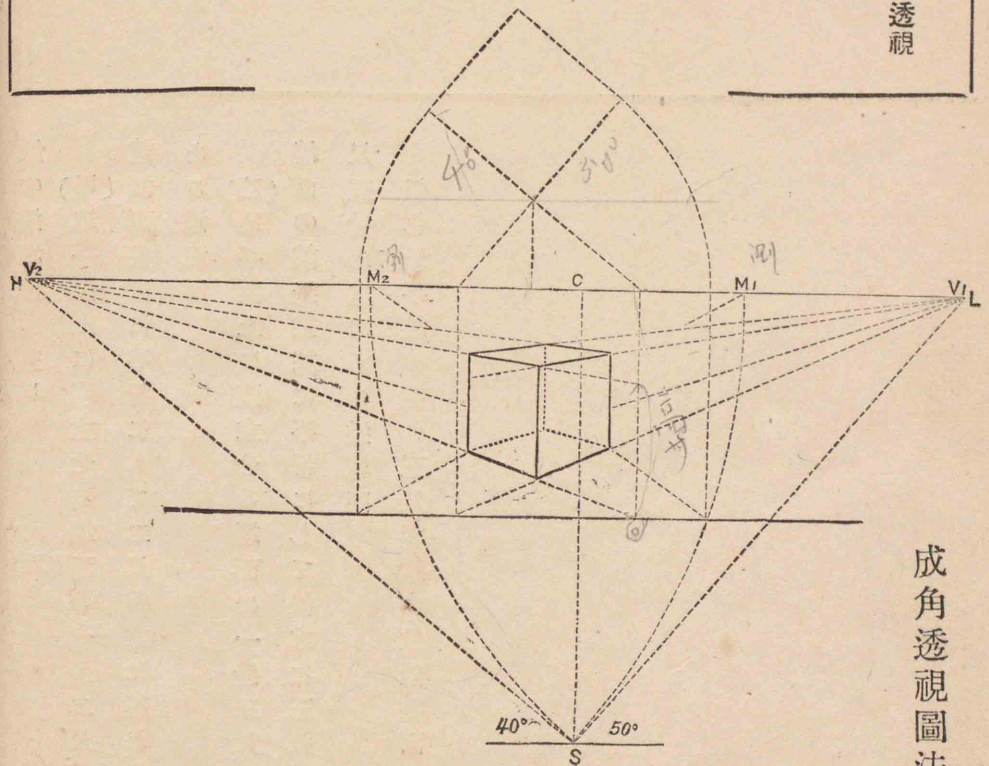
(甲) 地平面上に直立せる端面の一邊二尺、高さ八尺の直正四角墻あり。其の
 前側面畫面に平行にして二尺後方に離れ、右側面方向線の左方一尺の處に
 ある透視圖。

(乙) 地平面上に直立せる端面の一邊三尺、高さ七尺の直正四角錐あり。其の
 端面の前邊基線に平行にして後方に三尺離れ、端面の左邊方向線の右方二
 尺五寸の處にある透視圖。

但し地平線の高さ五尺、視點の位置畫面の前方一丈の處にあるものとす。



Handwritten calculations and notes in pencil, including fractions like 3/8, 9/10, 15/20, and 15/20, and other scribbles.



成角透視圖法

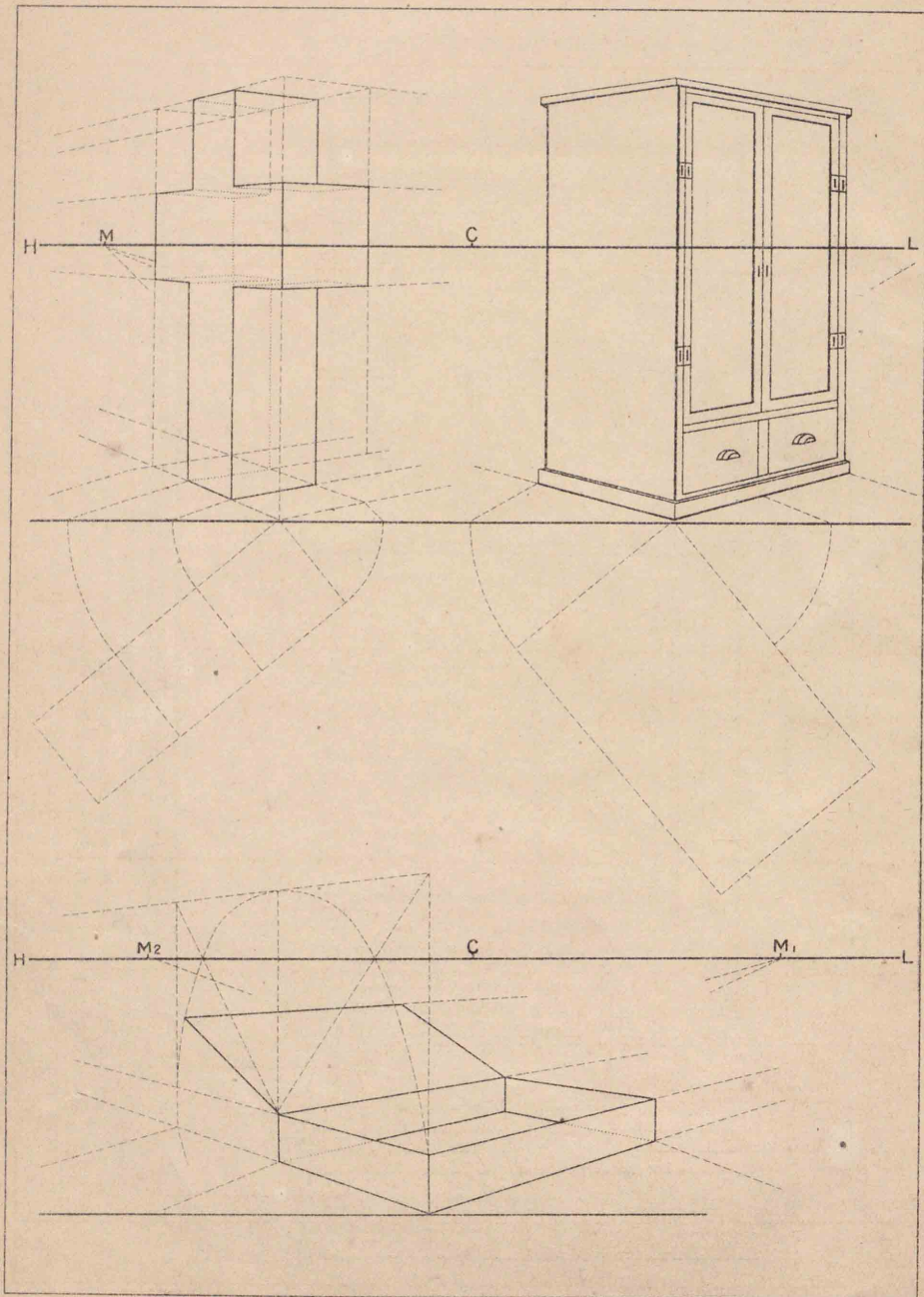
例題 地平面上に直立せる一邊の長さ三尺の立方體あり、其の最前方の稜方向線の左方に一尺畫面の後方に二尺離れ、左側面は畫面に四十度、右側面は畫面に五十度の角度をなせる透視圖を畫く法、
但し地平線の高さ五尺、視點の位置畫面の前方一丈の處にあるものとす。

應用問題 左の直正三角錐と直正六角壺との透視圖を畫け。

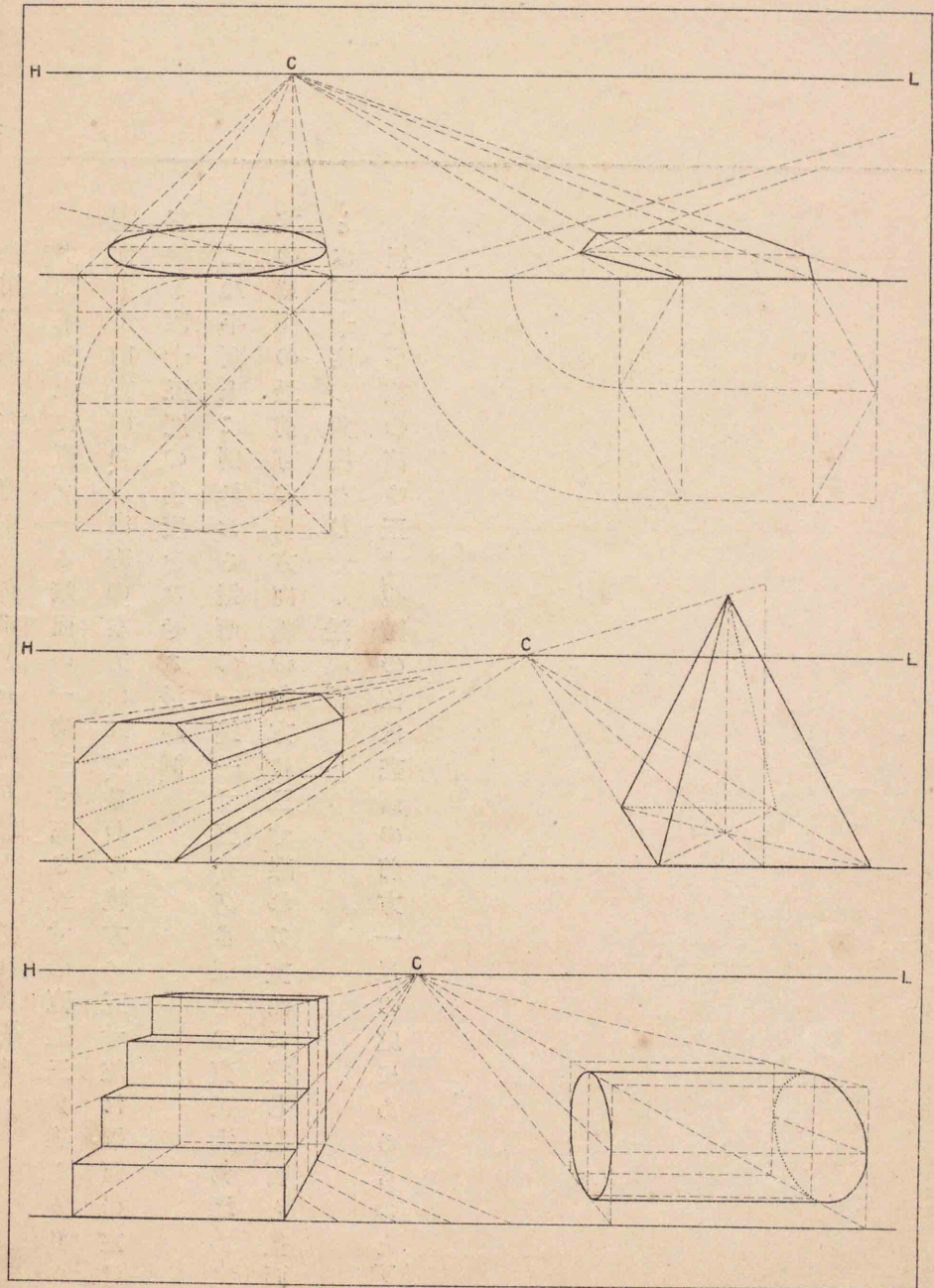
(甲) 地平面上に直立せる端面の一邊三寸、高さ五寸の直正三角錐あり、其の端面の最前方の角、方向線の右方に二寸、畫面の後方に五寸離れ、端面の左邊基線と四十五度の角度をなせる透視圖。

(乙) 地平面上に倒れたる端面の一邊一寸五分、高さ五寸の直正六角壺あり、其の端面の最前方の角、方向線の左方に三寸離れて、畫面に接し、端面と畫面とは五十度の角度をなせる透視圖。

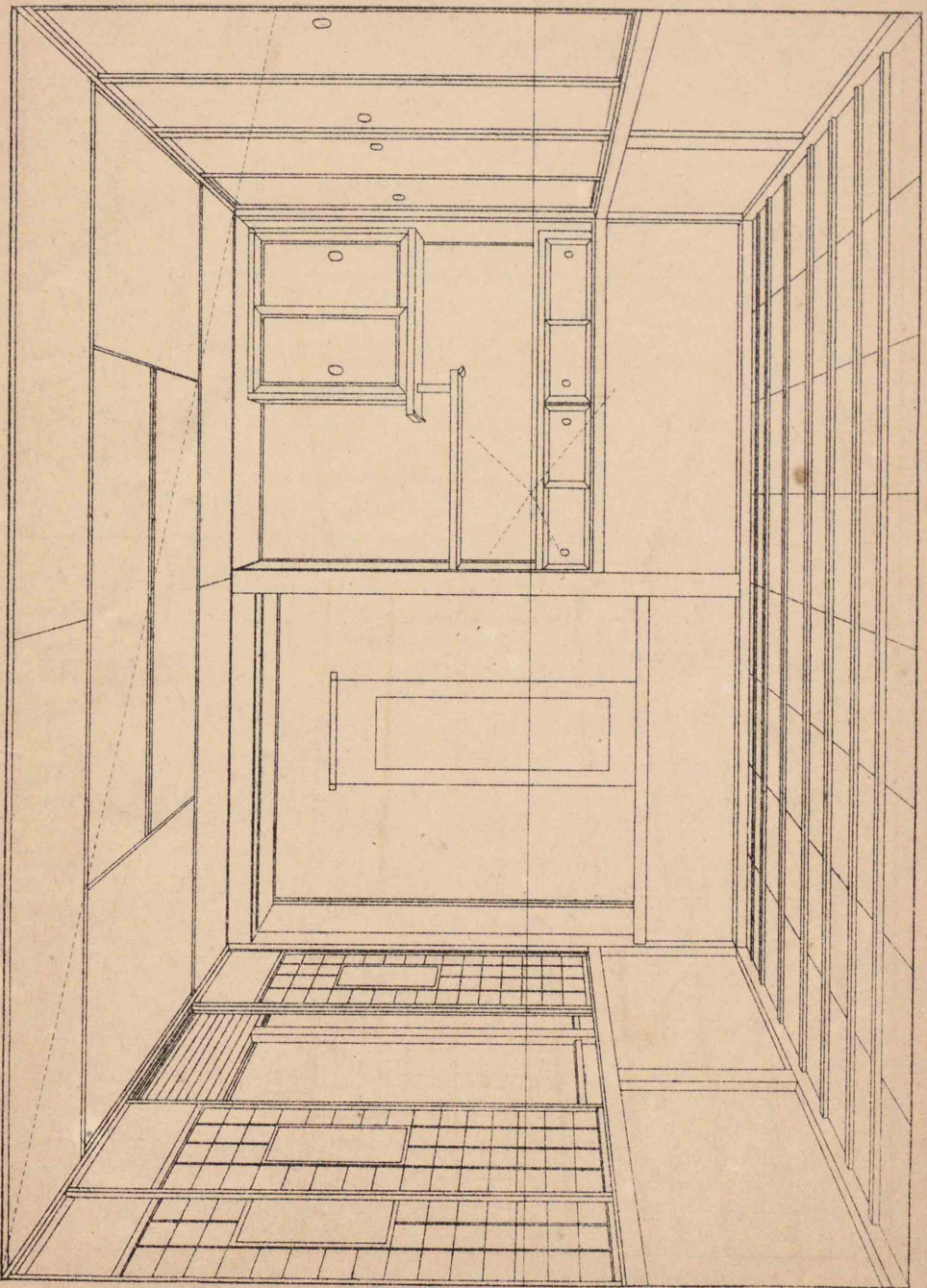
但し地平線の高さ三寸、視點の位置畫面の前方一尺の處にあるものとす。



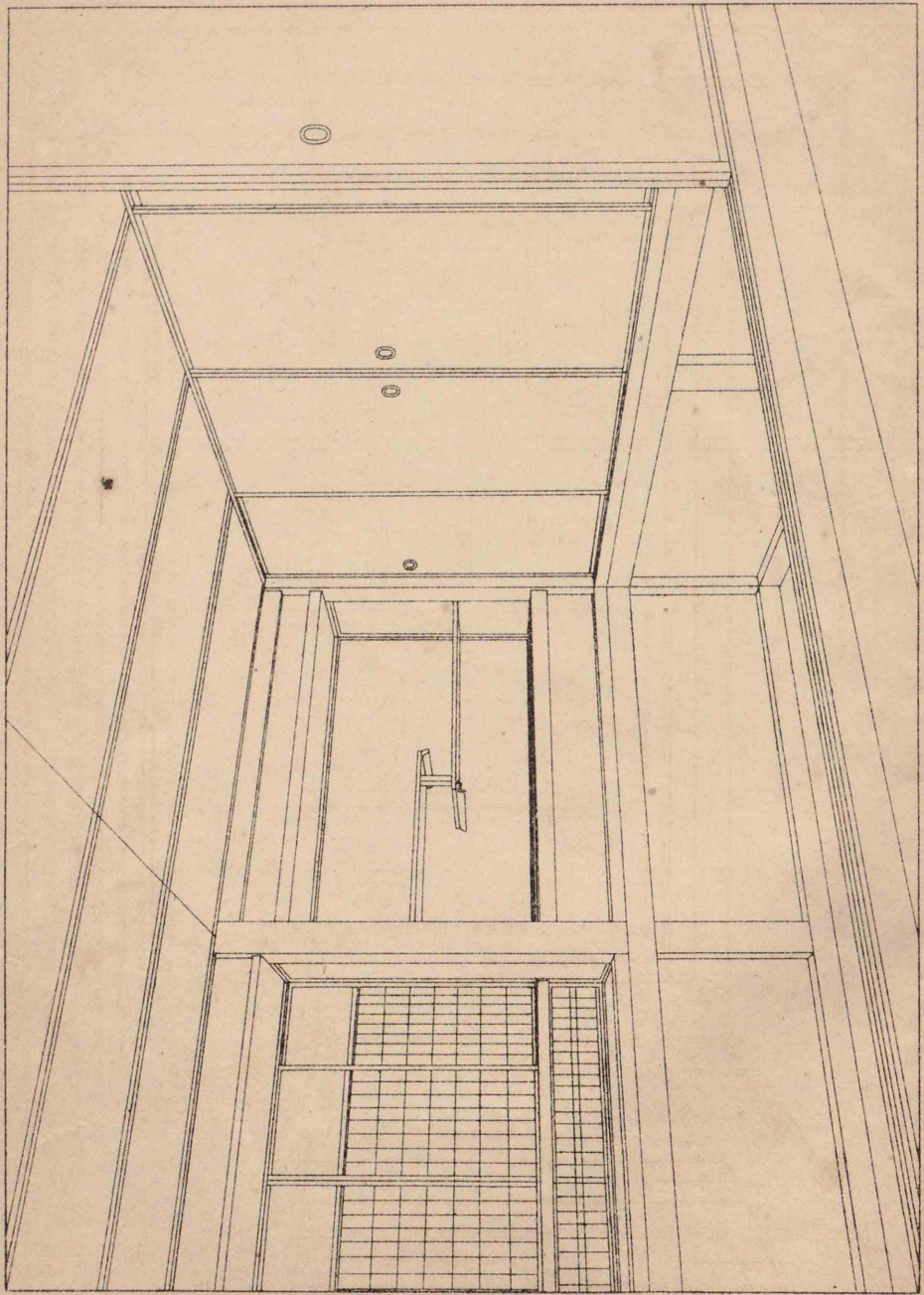
圖視透角成



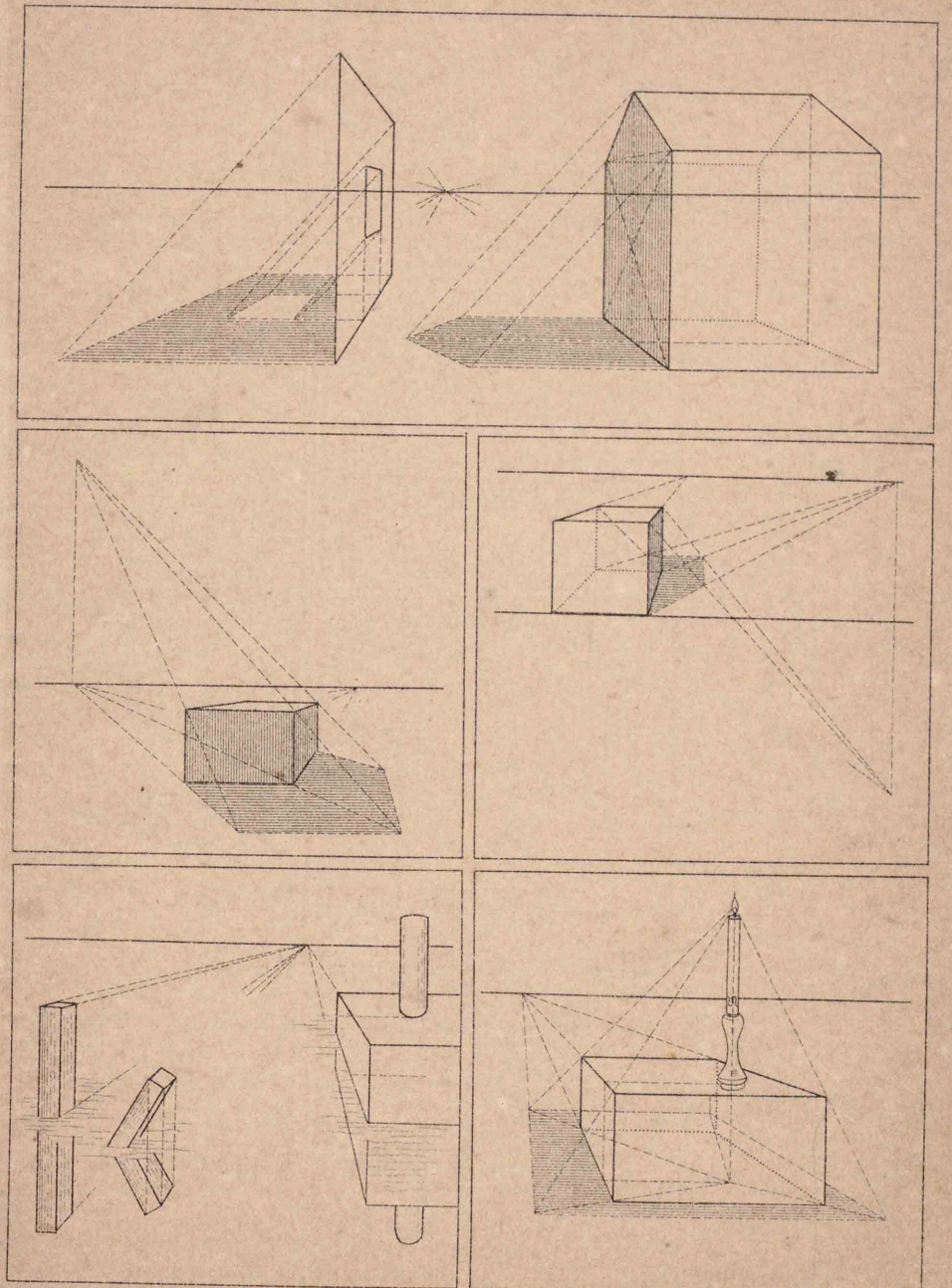
圖視透行平



座敷 (其の一)



座敷 (其の二)



圖視透像虛及影陰

—————

著 者 阿 部 七 五 三 吉
 同 著 者 谷 錄 太 郎
 發 行 者 兼 大 日 本 圖 書 株 式 會 社
 東 京 市 京 橋 區 銀 座 一 丁 目 廿 二 番 地
 右 代 表 者 宮 川 保 全
 專 務 取 締 役

大 大 大 大 大
 正 正 正 正 正
 七 七 六 六 元
 年 年 年 年 年
 一 十 十 十 十
 一 一 一 一 二
 月 月 月 月 月
 八 五 三 廿 七
 日 日 日 日 日
 訂 訂 訂 訂 訂
 正 正 正 正 正
 三 版 再 版 再 版
 發 行 發 行 發 行 發 行 發 行

定 價
 卷 一 之 一 …… 67 錢
 卷 二 之 二 …… 61 錢
 卷 三 之 三 …… 50 錢
 卷 四 之 四 …… 42 錢
 卷 五 之 五 …… 45 錢
 數 授 法 之 卷

大 正 七 年 版
 臨 時 定 價 金 五 拾 八 錢

正 師 範 圖 畫 教 科 書

広島大学図書

2000301414

